

平成 30 年度

小・中学校における
租税教育実践報告

仙台南地区租税教育推進協議会



発刊にあたって

仙台南地区租税教育推進協議会長
岩沼市教育委員会
教育長 百井 崇

本年度における「仙台南地区租税教育推進協議会」の主な事業が、過日岩沼市中央公民館にて行われた「租税教育に関する研究発表会」を最後に、滞りなく終了しました。関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

さて、東日本大震災から8年を迎え、当協議会の会員である2市2町の復興事業もほぼ仕上げの段階に入っています。国内においては、2年後に復興五輪が開催されるなど、震災以前以上の動きが出ております。これも全て、しっかりした社会基盤のなせる業であり、税金の裏付けがあるからできることです。税に対する国民の理解がそのことを可能としております。震災復興から新たな段階へ進むためにも、税に対する正しい理解が必要になります。そのような意味からも、学校の租税教育における本協議会の果たす役割は非常に大きいものがあります。

学校では、児童生徒が社会に積極的に参画できるように、政治的教養を育む教育、社会参画に関する教育、そして租税に関する教育など、多くの取組をしております。

当協議会は、租税教育を通じて、税の持つ意義について児童生徒に十分な理解を促す努力を続けてまいりました。この実践の成果を、11月14日に岩沼市中央公民館において、名取市立第一中学校、岩沼市立玉浦中学校、亘理町立荒浜小学校、山元町立山下第一小学校の4校が発表し、それぞれの学校の取組を学び合うことができました。

4校の実践発表は、児童生徒が租税の意義や役割を正しく理解するのにふさわしいテーマでした。このような取組を通して、各校の児童生徒は租税の意義の理解を深めたものと思います。また、この取組は、国の主体は自分たちであるという自覚を育てるのに有意義な機会となっております。発表された4校の先生方に感謝申し上げます。

本書には、この4校の実践例が要約した形で掲載されております。是非、ご覧いただき、それぞれの学校における租税教育推進の一助にしていいただければ幸いです。

最後になりますが、これまで発刊に向けご尽力いただきました仙台南税務署の皆様のご配慮、さらには現場の先生方や税務関係者の方々のご支援に心から感謝申し上げます、挨拶いたします。

平成31年3月

目 次

1	仙台南地区租税教育推進協議会のあゆみ	1
2	平成30年度 租税教育推進協議会の主な活動状況	3
3	平成30年度 租税教育研究発表要項（順不同・敬称略）	
(1)	「租税教室や資料を用いた指導の工夫」	11
	名取市立第一中学校 榊田修 教諭	
(2)	「歴史的分野における租税教育の可能性」	27
	～近代革命期と現在の税制度の比較を通して～	
	岩沼市立玉浦中学校 川又大輝 教諭	
(3)	「税への興味・関心を高め、正しい知識と納税意識をもった子どもの育成」	35
	～児童自らが課題をもち、調べる活動を通して～	
	亘理町立荒浜小学校 高橋洋彰 教諭	
(4)	「児童が税に対する興味・関心をもつための指導の工夫」	45
	～総合的な学習の時間「税金ってなんだ」の学習を通して～	
	山元町立山下第一小学校 名取富江 教諭	
(参考資料)	租税教育実践発表一覧	55
	平成30年度 仙台南地区租税教育推進協議会 役員名簿	61

1 仙台南地区租税教育推進協議会のあゆみ

(1) 設 立

この会は、仙台南地区の税務及び教育関係者が協力して、児童・生徒並びに社会人に対する租税教育を推進し、納税道義の高揚に必要な事項について協議し、また、連絡協調を図ることを目的としている。

当協議会は、昭和62年3月25日の設立準備委員会を経て、次の機関構成をもって、昭和62年5月25日に設立されている。

(2) 構成機関

構 成 機 関 名	
教 育 関 係 機 関	税 務 関 係 機 関
宮城県教育庁仙台教育事務所 名取市教育委員会 岩沼市教育委員会 亘理町教育委員会 山元町教育委員会 各地区校長会	仙台南税務関係団体協議会 宮城県仙台南県税事務所 名取市役所 岩沼市役所 亘理町役場 山元町役場 仙台南税務署

(3) 事業内容

- イ 租税教育の計画策定
- ロ 児童・生徒の租税教育に関する座談会及び研究発表会の開催
- ハ 租税教室の開催
- ニ 税に関する作品募集の支援
- ホ 小・中学校における租税教育実践報告書の作成
- ヘ 租税教育用教材の提供
- ト 税を考える週間行事への協力

(4) 歴代会長

初代	昭和62年5月25日	～	平成元年6月13日	岩沼市教育委員会	教育長	遠藤幸四郎
2代	平成元年6月13日	～	平成5年6月1日	名取市教育委員会	教育長	佐々木健
3代	平成5年6月1日	～	平成8年10月15日	山元町教育委員会	教育長	菅野丈治
4代	平成8年10月15日	～	平成13年6月8日	亶理町教育委員会	教育長	三品堯明
5代	平成13年6月8日	～	平成14年12月31日	岩沼市教育委員会	教育長	砂金勲
6代	平成15年1月1日	～	平成15年6月10日	岩沼市教育委員会	教育長	影山一郎
7代	平成15年6月10日	～	平成16年9月30日	名取市教育委員会	教育長	太田洋一
8代	平成16年10月1日	～	平成17年6月2日	名取市教育委員会	教育長	阿部哲男
9代	平成17年6月2日	～	平成19年3月31日	山元町教育委員会	教育長	佐々木陽一郎
10代	平成19年5月10日	～	平成19年6月1日	山元町教育委員会	教育長	横山俊二
11代	平成19年6月1日	～	平成21年6月1日	亶理町教育委員会	教育長	鈴木光範
12代	平成21年6月1日	～	平成23年6月24日	岩沼市教育委員会	教育長	影山一郎
13代	平成23年6月24日	～	平成25年6月20日	名取市教育委員会	教育長	丸山春夫
14代	平成25年6月20日	～	平成27年6月26日	山元町教育委員会	教育長	森憲一
15代	平成27年6月26日	～	平成29年6月28日	亶理町教育委員会	教育長	岩城敏夫
16代	平成29年6月28日	～		岩沼市教育委員会	教育長	百井崇

2 平成30年度 租税教育推進協議会の主な活動状況

○ 児童・生徒の租税教育に関する座談会

(内容) 研究発表会に向け、児童・生徒の租税教育に直接携わっている教員同士の意見交換を分科会方式で実施した。

年 月 日	平成30年8月20日(月)
場 所	亶理町中央公民館
出 席 者	仙台南地区租税教育推進協議会役員 教育関係者・関係民間団体・税務関係官庁 平成29年度、平成30年度、平成31年度研究発表(予定)校

○ 児童・生徒の租税教育に関する研究発表会

(内容) 研究発表指定校の教員が、租税教育に関する研究内容を発表した。

年 月 日	平成30年11月14日(水)												
場 所	岩沼市中央公民館												
発 表 者	<table border="0"> <tr> <td>名取市立 第一中学校</td> <td>教 諭</td> <td>榊 田 修</td> </tr> <tr> <td>岩沼市立 玉浦中学校</td> <td>教 諭</td> <td>川 又 大輝</td> </tr> <tr> <td>亶理町立 荒浜小学校</td> <td>教 諭</td> <td>高 橋 洋彰</td> </tr> <tr> <td>山元町立 山下第一小学校</td> <td>教 諭</td> <td>名 取 富江</td> </tr> </table>	名取市立 第一中学校	教 諭	榊 田 修	岩沼市立 玉浦中学校	教 諭	川 又 大輝	亶理町立 荒浜小学校	教 諭	高 橋 洋彰	山元町立 山下第一小学校	教 諭	名 取 富江
名取市立 第一中学校	教 諭	榊 田 修											
岩沼市立 玉浦中学校	教 諭	川 又 大輝											
亶理町立 荒浜小学校	教 諭	高 橋 洋彰											
山元町立 山下第一小学校	教 諭	名 取 富江											

児童・生徒の租税教育に関する座談会

開催日 平成30年8月20日(月)
開催場所 亘理町中央公民館



会長あいさつ:岩沼市教育委員会
百井 崇 教育長



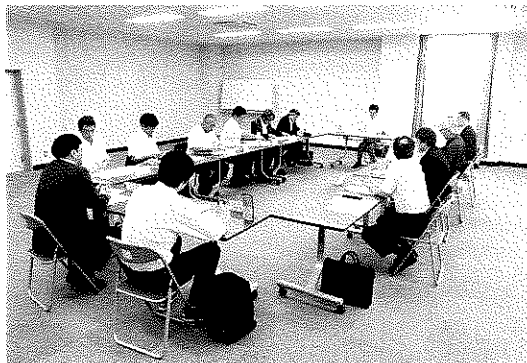
顧問あいさつ:仙台南税務署
高橋 和則 署長



副会長あいさつ:公益社団法人仙台南法人会
相澤 十四男 会長



第一分科会



第二分科会



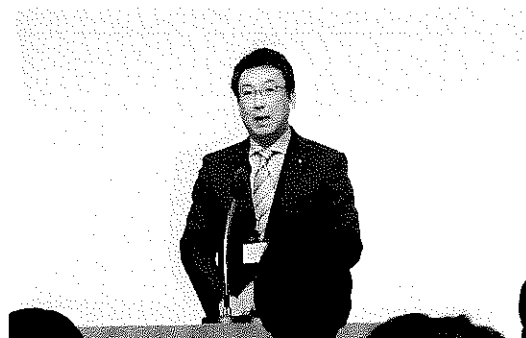
第三分科会

租税教育に関する研究発表会

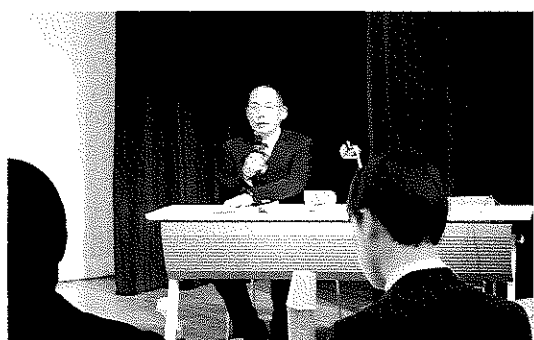
開催日 平成30年11月14日(水)
開催場所 岩沼市中央公民館



会長あいさつ:岩沼市教育委員会
百井 崇 教育長



祝辞:岩沼市
大友 彰 総務部長



発表:名取市立 第一中学校
榊田 修 教諭



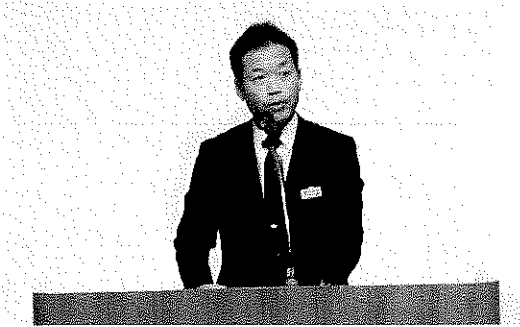
発表:岩沼市立 玉浦中学校
川又 大輝 教諭



発表:巨理町立 荒浜小学校
高橋 洋彰 教諭



発表:山元町立 山下第一小学校
名取 富江 教諭



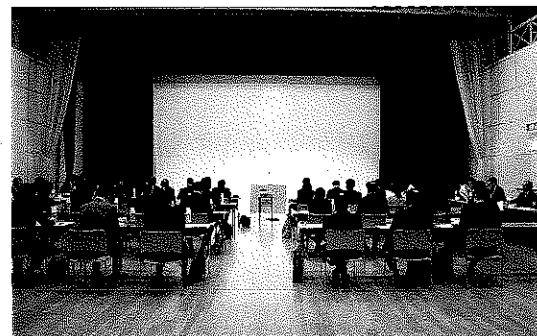
講評: 仙台教育事務所
岩淵 謙 主幹(指導主事)



感謝状贈呈



記念品贈呈: 仙台南間税会

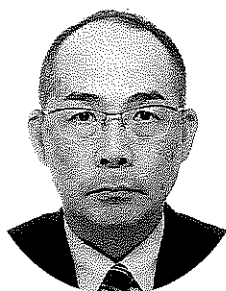


研究発表会 会場

平成30年度 租税教育に関する研究発表者

開催日 平成30年11月14日(水)

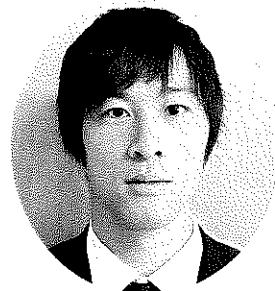
開催場所 岩沼市中央公民館



名取市立 第一中学校

教諭 榊 田 修

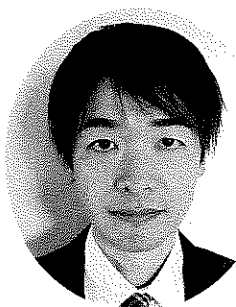
「租税教室や資料を用いた指導の工夫」



岩沼市立 玉浦中学校

教諭 川 又 大 輝

「歴史的分野における租税教育の可能性」
～近代革命期と現在の税制度の比較を通して～



亘理町立 荒浜小学校

教諭 高 橋 洋 彰

「税への興味・関心を高め、正しい知識と納税意識をもった子どもの育成」
～児童自らが課題をもち、調べる活動を通して～



山元町立 山下第一小学校

教諭 名 取 富 江

「児童が税に対する興味・関心をもつための指導の工夫」
～総合的な学習の時間「税金ってなんだ」の学習を通して～

平成 30 年度 租税教育に関する研究発表要項

名取市立第一中学校
教諭 榎田 修

1 研究主題

「租税教室や資料を用いた指導の工夫」

2 主題設定の理由

はじめに、「租税」に関する学習内容として、中学校学習指導要領社会科の公民分野の「2 内容（2）私たちと経済イ国民生活と政府の役割」において、「財源の確保と配分という観点から財政の役割について考えさせる。その際、租税の意義と役割について考えさせるとともに、国民の納税の義務について理解させる。」とある。これをねらいとして中学校社会科では、3 学年公民分野で「租税」について学習することになっている。

後にも述べているが、本校中学 3 年生の実態として、「税」に関する知識が不足したり「納税」へのイメージは良いものではない。「税金」は消費税や関税といった言葉しか出てこなかった。どうしても「お金を納める」ではなく「取られる」や「以前消費税は無かったのに、なぜ国は取り入れたのだろうか？」といった回答もあった。どうしてもマイナスのイメージが先行している「税」は、自分たちの生活に役に立つものであるという事実気付いていない。

こうしたことから、租税の意義と役割に気付かせ、国民の義務である「納税」についての知識を更に深めさせたいと考えた。

以前に小学校で学んでいる生徒もいるが、再び「租税教室」の実施をきっかけとし、「税」に関する興味関心を持たせ、知識と理解を深めさせることができると考え、本主題を設定した。

3 研究目標

租税教室や資料を用いた学習を通して、租税に対する興味・関心を高め、その意義や役割を理解させる指導法を探る。

4 研究仮説

税金はなぜ納めるのか、その使いみちはどうなっているのかを生徒が疑問を持ち、考えることができれば、租税教室の実施や資料を用いた指導をすることで、租税の意義や役割を正しく理解し、興味・関心が深まるだろう。

5 研究の方法

- (1) 生徒の税に関する実態を把握する。(アンケート調査)
- (2) 租税教室を通して、租税の意義や役割について理解を深める。

(3)「私たちの暮らしと税」(平成29年度版)の資料を基に個人レポートの作成させる。

6 研究の概要

(1) 租税に関する授業(中学3年 社会 公民 11月 全4時間)

1時間目 税に関する生徒へのアンケート調査(全6クラス)

設問	正答率	誤答率(無回答含む)
1 税の種類について (選択問題)	75%	25%
2 消費税についての説明	90%	10%
3 税の使いみちについて	30%	70%
4 納税についての説明	20%	80%
設問	生徒数	生徒数
5 小学校時代に租税教室 を体験した生徒	体験あり 38名	体験なし 192名

アンケート調査の結果から、「1 税の種類について」の質問では、消費税についての解答が一番多く、次いで関税、所得税、相続税などの用語が挙げられた。他にも自動車税、酒税、たばこ税などの用語も挙げている生徒もいたが、税の知識についてやや個人差が大きい結果となった。「2 消費税について」の説明では、消費税導入後の3%から8%に至るまでの過程を詳しく説明できている生徒と、8%の数値のみを答える生徒に分かれていた。歴史分野に関わる内容であるが、詳しくは覚えていない状態であった。「3 税の使いみちについて」は、習っていないこともあり、よくわからないといった回答が多く7割を超え、また「4 納税について」の説明も残念ながら、無回答が多い結果となっている。

「5 小学校時代に租税教室を体験した生徒」の数は、全体の16%であり、名取市立第一中学校の学区が、不二が丘小学校、愛島小学校、館腰小学校、増田西小学校と多岐に渡っているため低い数値となっている。

2時間目 租税教室 3F小ホール

税理士法人 Sincere(シンシア)から税理士の渡辺敏幸様にお越しいただいて、3年生を対象に租税教室を実施した。1時間目に実施したアンケート調査から税に対する質問を、事前にFAXでお伝えし、可能な限り回答頂けるようお願いしていた。(質問内容は別紙参照…資料2)

なお、当日はDVDを視聴しながら、「まんがでわかる!税って何かな?」(日本税理士連合会)を活用し、教えていただいた。時間の最後に質問コーナーを設け、生徒からの疑問にさらに丁寧に答えていただいた。生徒は興味をもって授業を受け、楽しみながら学習に参加していた。なお、租税教室の様子はVTRにすべて記録しておいた。

3時間目 私たちの生活と財政（教科書）を中心に理解させる。

- ・財政の仕組み
- ・さまざまな税金
- ・税金の公平性

統計資料を基に、国の歳入と歳出について調べ、財政について関心を持たせた。
税金の公平な負担について、多面的・多角的に考察させた。

4時間目 私たちの暮らしと税（平成29年度版）を活用して理解させる。

- ・国の予算を見てみよう。
- ・東日本大震災経費（震災被害生徒に配慮する必要あり）
- ・宮城県の予算を見てみよう。
- ・これからの社会と税
 - ①ふくらむ社会保障費
 - ②人口減少・高齢化
 - ③日本と外国の税金の比較

以上の内容から、どれか一つを選び、各自レポートを作成させた。

7 研究の成果と課題

租税の学習は、難しい用語が多く、また財政問題については生徒の知識と体験がかなり乏しい。こうしたことから身近な資料として地域の資料などを取り入れることで、興味・関心を高めさせなければならない。

今回、「租税教室」を授業に組み入れたことは、授業を進める上でかなり効果的であった。専門的な講師をお迎えして、生徒に教えていただいたことは彼らにとって特別な出来事であり、また良い思い出となっている。日々の指導では見過ごしてしまう疑問点などにも気付かせてくれた。以下に成果と課題について述べることにする。

【成果】

(1) 生徒の興味・関心

租税に対する生徒のイメージが変化し、80%の生徒が興味・関心を深めることができた。「税」のマイナスのイメージを払拭できた。なかには税理士の仕事に興味を持つ生徒も増えていた。

(2) 生徒の理解力

単元の導入に租税教室を実施したことにより、既習知識が増え、その後の授業展開がスムーズに行うことができた。専門的な用語も税理士さんの丁寧な説明により生徒の理解力が更に深まった。

(3) 記憶の定着

卒業前にどれだけ「税」や「租税教室」について、用語の意味や感想を記述式で答えさせたところ、ほとんどの生徒が記憶に留めており、機会があればまた「税」について学びたいという意見が多かった。

【課題】

(1) 6クラスの租税教室の実施場所

理想を言えば、丸1日税理士さんをお願いをして各クラスで授業を進め、教員側が補助にまわるティームティーチングで行うのが望ましい。だが時間的には無理であり、今回は3F小ホールで実施した。体育館も検討したが、DVD視聴による大スクリーンや、放送設備の準備に時間と人数が必要のため見送った。また、体育館では230名の移動時間や生徒の集中力を維持することが難しいことも理由に挙げられる。

(2) 実施時期

「租税」に関する授業内容は、毎年3学年の社会科の進度では、11月半ばの経済単元であり、実力考査や三者面談が重なるため租税教室時期の決定に苦慮する。翌年に租税教室の発表を控え、間に合わないことを考え、やむなく今回は前年に実施した。

(3) 学校事情

1つの学校に社会科教員の数は生徒数によって限られてくる。3年社会科担当の授業時数は週4時間となり、6クラスであれば教員は2人から3人で行う。

複数の教員で授業の進度を調整しなければならないことや、生徒の実態把握にかなりの時間を要する。幸い2学年時に全クラスを教えていたこともあり、何とか昨年度は行うこともできたが、2年連続3学年を指導するとは限らない。

平成 29 年度「租税教室」実施計画（案）

1 ねらい

税に携わる専門家の講話を聞くことにより,税に関する知識を深め,税の負担者としての自覚を持たせる。

2 日 時

平成 29 年 11 月 30 日 (木曜日)
5 校時 (13 時 40 分～14 時 30 分)

3 場 所

校舎 3 階ホール

4 講 師

税理士法人 Sincere (シンシア) 税理士 渡辺 敏幸 氏

5 参加生徒

3 学年生徒 230 名

6 内 容 (予定)

- (1) あいさつ
- (2) 講師紹介
- (3) 租税教育学習
 - ① DVD 視聴
 - ② 講話
 - ③ 質問
- (4) お礼の言葉
- (5) あいさつ

7 準備物

- ・生徒用机または図書室の折り畳みテーブル 1 台
- ・テレビ, DVDレコーダー, パソコン, プロジェクター, 小型スクリーン等

租税教室に関する質問事項（生徒）

※生徒の質問をそのまま記入しています。また、税について6クラスとも未学習です。
（3学年生徒数230名より抜粋）

● 「税」「納税」に関することで知りたいこと、質問があれば記入しなさい。

- ・なぜ消費税を10パーセントにするのか？
- ・今後の消費税の動きについて？
- ・納税の意味を詳しく知りたい？
- ・税の使いみちについて？
- ・揮発油税について？
- ・税を納めているのに国が借金をするのはなぜか？
- ・税金を下げたらどんな影響を及ぼすのか？
- ・法人税とは？
- ・日本の税率はなぜ低いのか？
- ・税金を高くするメリットは？
- ・現在の税の総額？
- ・税理士の仕事内容について？
- ・たばこ税の総額？
- ・納税の手順？
- ・税の中で一番重要な税はどれか？
- ・消費税を減らすことはできないのか？
- ・税を納める時期はいつか？
- ・税をなくしたらどうなるか？
- ・なぜ自動車税が必要なのか？（消費税を支払い済なのに）
- ・どうして税が作られたのか？
- ・税の歴史について？
- ・消費税と納税の違いについて？

● 小学校時に租税教室を経験した生徒⇒ 230名中 38名

名取市立第一中学校 学区内小学校

不二が丘小学校 愛島小学校 館腰小学校 増田西小学校 他

租税教室実施後のアンケート（生徒）

○授業は理解しましたか？	非常に理解した 28%	理解した 59%	やや理解した 13%	分からなかった 0%
○税は必要だと思いますか？	とても思う 80%	やや思う 20%	あまり思わない 0%	全く思わない
○税は社会に役立っていると思いますか？	とても思う 65%	やや思う 35%	あまり思わない 0%	全く思わない 0%
○税の使われ方に興味はありますか？	とても興味がある 18%	やや興味がある 63%	あまり興味はない 18%	全く興味がない 1%
○税を納めることについての意識は、授業前と後で変わりましたか？	とても変わった 15%	変わった 65%	変わらない 16%	どちらともいえない 4%

○授業を受けての感想（一部抜粋，原文のまま）

- ・税は様々なところで役に立っていることが分かりました。
- ・50種類以上の税があるとは知らなかった。
- ・あやふやだった税の知識を、記憶に強くとどめることができました。
- ・税金の大切さを理解することが出来ました。
- ・累進課税制度について、理解することができました。
- ・とん税について知ることができました。
- ・税金のおかげで私たちの生活が豊かになっていることが分かりました。
- ・自分の両親が、たくさん税金を納めていることが分かりました。
- ・税金について深く知りたいと思った。機会があれば自分でも調べてみたい。
- ・税理士の方の説明が分かりやすかった。すんなりと理解できた。
- ・税の大切さは聞いていたけど、説明を詳しく聞いて前より分かった。
- ・税金の使いみちについて深く知ることができた。
- ・税は国のみんなのものだとよくわかりました。
- ・大人になってから、きちんと税金を納めたいと思った。
- ・税理士の仕事に興味がわきました。
- ・消費税の大切さがわかった。
- ・あと少ししたら消費税が10%に引き上げられますが、国の大変な状況を理解したの

資料 4

で協力しようと思います。

- ・税理士の仕事について、よく分かりました。
- ・私たち 1 人あたりの年間教育費が約 100 万円かかると知り、日本中で考えられないほどの金額がかかると思った。
- ・増税はやむをえないことだと思った。
- ・「私たちが主人公」というキーワードから、自分にはあまり関係ないと思っていた税について興味関心が持てるようになった。
- ・税の使われ方や必要さが十分に分かった。今までは税について必要性を感じなかった。
- ・税の増税や減税のメリット、デメリットについて分かった。将来に渡って考え続けなければならない難しい課題だと思った。
- ・税がないと財政に影響し、公共サービスを受けられないことが分かった。
- ・税について、よいイメージがなかったが、国民のために使われていることを改めて知った。
- ・増税には反対の意見だったが、租税教室での話からなぜ税金を上げなければならないのか学びました。
- ・大人になり、仕事をして給料をもらったら必ず税金を払わなければいけないと思った。税について学べば学ぶほど、世の中の難しい課題が出てきたように思う。
- ・パワーポイントを使った内容がとても分かりやすかったです。楽しみながら学ぶことが出来ました。
- ・固定資産税や所得税など、自分の父親や母親が多くの税を納めているのに気付いた。
- ・日本が莫大な借金を抱えていることに驚き、このままでいいのか不安になった。
- ・税について興味がわき、インターネットなどでさらに調べようと思った。
- ・公平に税を集めるのは難しいと感じた。
- ・世の中に税金の制度がなくなると、大変なことになると分かった。
- ・私たちの暮らしに、税金はとても重要なものと分かった。
- ・消費税が上がるのは嫌だけど、今日の話聞いて仕方がないと思った。
- ・将来、税のことで困ったら、税理士さんをお願いしようと思った。

平成 29 年 11 月 30 日

3 年 1 組

租税教室アンケート

○今日の授業は理解できましたか？

- ①非常に理解した ②理解した ③やや理解した ④わからなかった

○税は必要だと思えますか？

- ①とても思う ②ややそう思う ③あまり思わない ④まったく思わない

○税が社会に役立っていると思えますか？

- ①とても思う ②ややそう思う ③あまり思わない ④まったく思わない

○税の使われ方に興味はありますか？

- ①とても興味がある ②やや興味がある ③あまり興味はない ④まったく興味ない

○税を納めることについての意識は授業前と後で変わりましたか？

- ①とても変わった ②変わった ③変わらない ④どちらともいえない

○授業を受けて勉強になったことや感想を書いて下さい。

今日初めての租税教室を開いていただき、ありがとうございます。
今まで私は、何と消費税が 5% から 8% に変わったから、めちゃくちゃ
高くなった嫌だなと強く感じていました。しかし今回の租税教室を開
いてもらったので、その気持ちは変わり、消費税がないと、自分たちが困る
んだなと思いました。「税、何？」という本も、とても分かりやすかった
ので、すぐ見て理解することもできたし、絵も書いてあったので理解
しました。そして、50種類もの税があるのは、とてもすご
いと思われ、おどろきました。今日（日）おもしろいのが来いただき
ありがとうございます。

租税教室アンケート

○今日の授業は理解できましたか？

- ①非常に理解した ②理解した ③やや理解した ④わからなかった

○税は必要だと思えますか？

- ①とても思う ②ややそう思う ③あまり思わない ④まったく思わない

○税が社会に役立っていると思えますか？

- ①とても思う ②ややそう思う ③あまり思わない ④まったく思わない

○税の使われ方に興味はありますか？

- ①とても興味がある ②やや興味がある ③あまり興味はない ④まったく興味ない

○税を納めることについての意識は授業前と後で変わりましたか？

- ①とても変わった ②変わった ③変わらない ④どちらともいえない

○授業を受けて勉強になったことや感想を書いて下さい。

今回の授業を受けてからは「税」がどのようなように使われているのかよく分からなかったけど今回の授業で「税の使われ方」を知り、税は国にとってとても大切なのだと分かりました。

支出に対しての収入のお金が足りていない事を知り、

もう少しお金の使い方を考えるようにしようと思ったし、国民全員がその意識を持つべきだと思った。

今、しっかり納める事で後々、自分に返ってくる事を知り、自分が大人になっても、しっかり納めようと思いました。

平成 29 年 11 月 30 日

3 年 3 組

租税教室アンケート

○今日の授業は理解できましたか？

- ①非常に理解した ②理解した ③やや理解した ④わからなかった

○税は必要だと思えますか？

- ①とても思う ②ややそう思う ③あまり思わない ④まったく思わない

○税が社会に役立っていると思えますか？

- ①とても思う ②ややそう思う ③あまり思わない ④まったく思わない

○税の使われ方に興味はありますか？

- ①とても興味がある ②やや興味がある ③あまり興味はない ④まったく興味ない

○税を納めることについての意識は授業前と後で変わりましたか？

- ①とても変わった ②変わった ③変わらない ④どちらともいえない

○授業を受けて勉強になったことや感想を書いて下さい。

私は税金は大人になったら義務として納めるものという程度にしか思
ていませんでした。なので今回の授業で税の必要性がよく分かりました。
一番驚いたのは、身のまわりにあるものにはとても高い税がかかっている
ということです。学生の教育費や教育用具に何十万から何百万もかかるとい
うことは普段気にしたことがありませんでした。改めて税のありがた
みが分かりました。また、最後に税を無駄にしないようにするには、一
人一人の行動が重要だという話を聞きました。自分がよく考えて投票し
なくてはいけないのだなと思いました。

租税教室アンケート

○今日の授業は理解できましたか？

- ①非常に理解した ②理解した ③やや理解した ④わからなかった

○税は必要だと思いますか？

- ①とても思う ②ややそう思う ③あまり思わない ④まったく思わない

○税が社会に役立っていると思いますか？

- ①とても思う ②ややそう思う ③あまり思わない ④まったく思わない

○税の使われ方に興味はありますか？

- ①とても興味がある ②やや興味がある ③あまり興味はない ④まったく興味ない

○税を納めることについての意識は授業前と後で変わりましたか？

- ①とても変わった ②変わった ③変わらない ④どちらともいえない

○授業を受けて勉強になったことや感想を書いて下さい。

今まで税について、あまり深く考えたことはなかったが、今日の授業で、税金がなくなってしまうと、不自由、不利になってしまうとか、たてさんあるということとか分かりました。例えば、公園がなくなってしまう、病院に行けなくなってしまう、教育を受けることができなくなってしまう、今まであたりまえのようにできていたことが、できなくなってしまうことも分かりました。そして、税金は、約50種類もあるということを知りました。とん税とは、何七の七(とん)の税だということを知ったり、消費税や所得税など、税金について詳しく学ぶことができて良かったです。

平成 29 年 11 月 20 日

3 年 5 組

租税教室アンケート

○今日の授業は理解できましたか？

- ①非常に理解した ②理解した ③やや理解した ④わからなかった

○税は必要だと思いますか？

- ①とても思う ②ややそう思う ③あまり思わない ④まったく思わない

○税が社会に役立っていると思いますか？

- ①とても思う ②ややそう思う ③あまり思わない ④まったく思わない

○税の使われ方に興味はありますか？

- ①とても興味がある ②やや興味がある ③あまり興味はない ④まったく興味ない

○税を納めることについての意識は授業前と後で変わりましたか？

- ①とても変わった ②変わった ③変わらない ④どちらともいえない

○授業を受けて勉強になったことや感想を書いて下さい。

私は今回の租税教室の授業を受けて、税の使われ方にとっても驚かされました。税がないと大変なのだなどと改めて感じる事ができました。

特に驚いたのは、教育に使われる税金です。中学生の1人あたりの年間教育費が100万円ほどで、税が無かったらどうなってしまうのだと思うました。学校建設にも10億円もかかっていると初めて知りました。

平成 29 年 11 月 30 日

3 年 6 組

租税教室アンケート

○今日の授業は理解できましたか？

- ①非常に理解した ②理解した ③やや理解した ④わからなかった

○税は必要だと思いますか？

- ①とても思う ②ややそう思う ③あまり思わない ④まったく思わない

○税が社会に役立っていると思いますか？

- ①とても思う ②ややそう思う ③あまり思わない ④まったく思わない

○税の使われ方に興味はありますか？

- ①とても興味がある ②やや興味がある ③あまり興味はない ④まったく興味ない

○税を納めることについての意識は授業前と後で変わりましたか？

- ①とても変わった ②変わった ③変わらない ④どちらともいえない

○授業を受けて勉強になったことや感想を書いて下さい。

税の種類が 50 もあることにびっくりしました。

国や地方公共団体が負担する 公立学校の児童、生徒 1 人あたりの年間教育費で 約 100 万円ほどかかっている、おどろきました。そしてそれは税金でまかなわれていて、税金があるから 私たちは学校へ行けることができ、勉強することができているんだと感じました。税について学ぶことができて良かったです。

ありがとうございました！

租税教室に関して印象に残っていること

私はこの教室で税金がたくさんあることにとても驚きました。

聞いたことのある税金や、マニアックな税金を知ることができました。

●租税について知っていることを書きなさい。

消費税、固定資産税、たばこ税、直接税、間接税、累進課税
酒税、とん税

●印象に残っている税の種類や制度について書きなさい。

酒税、とん税、累進課税

●消費税について、今後どうしたらよいですか？あなたの考えを書きなさい。

私は消費税を増税の方がいいと思います。なぜなら税金を増せば
便利な町になってくれるからです。消費税とは違いますが、税金は国会
議員にも使われているので無馬人使、せす、国をよくしてくれるように
税金を使ってほしいです。

租税教室に関して印象に残っていること

「とん税」のとんは単位の「た」と知ったこと

●租税について知っていることを書きなさい。

国、資金、たり、公務員、給料になる。

●印象に残っている税の種類や制度について書きなさい。

とん税、固定資産税、法人税

累進課税

●消費税について、今後どうしたらよいですか？あなたの考えを書きなさい。

消費税は上げるべきではないと思います。なぜなら、国民の購欲が

低下するからです。今現在、物価は上がり続けているが所得が変わらない人

が多いため、家計が苦しくなっているという話を聞きます。また、元々所得の多い

人の所得は上がり続けているため、貧富の差が拡大しているという話を聞きます。

これ以上家計を圧迫し、貧富の差を拡大させないため、上げるべきではないと思います。

1 研究主題

『歴史的分野における租税教育の可能性』
～近代革命期と現在の税制度の比較を通して～

2 主題設定の理由

今日の私たちの生活は、国や地方公共団体の政策や支援によって成り立っている。具体的には、教育・環境衛生・消防・治安維持・社会保障などの公共サービスやインフラの整備などの活動は、私たちの生活に欠かすことのできないものであり、それらの費用の多くは、税によってまかなわれている。また、本校のある玉浦地区は、東日本大震災により大きな被害を受けた。しかし、現在は玉浦西地区を代表に新しいまちづくりが行われており、これらの活動には、国の復興予算などの税金が大きく関わっている。

2学年の事前アンケート調査の結果を見ると、租税の意義や用途について理解している生徒は少ない。授業においても、現代における租税のしくみや種類といった税に関する知識が乏しいと感じることも多い。また、税に対しては「納めなければならないもの」「とられるもの」といった否定的なイメージを持つ生徒もいるのが現状である。

中学校現場における租税教育の実践例は、第3学年で学ぶ公民的分野の実践に偏っており、1, 2学年段階での学習が少ない。さらに、選挙権が18歳に引き下がったことで、義務教育を終える中学3年間の中での主権者教育の意義は高まってきており、中学校3年間において、継続した租税教育の実践は今後の現代社会を生きる中学生にとって必要不可欠であると考えられる。第2学年での歴史的分野において、過去の税制度と現代の税制度の比較を通して、税の意義について学ばせるとともに、第3学年で学ぶ公民的分野における租税教育の導入になることを考え、本主題を設定した。

3 研究目標

税の役割や意義について理解を深めながら、税への関心を高める指導のあり方を探る。

4 研究仮説

授業や租税教室（外部人材の活用）を行うことで、税についての理解が深まり、関心が高まるだろう。

5 研究方法

- (1) 税における生徒の事前調査を行う。
- (2) 税理士会の協力をいただき、租税教室を行い、税の目的について理解させる。
- (3) 歴史的分野の授業において、過去と現代の税制度を比較させることで、税の目的について理解を深めさせる
- (4) 税における生徒の事後調査を行い、変容を把握する。

6 研究計画

- 8月 租税教室座談会
- 9月 税に対する意識調査の実施
- 10月 授業実践・租税教室実施
- 10月 税に対する意識調査の実施・研究のまとめ
- 11月 実践発表会

7 研究の概要

(1) 税に関する事前調査の結果 (2学年51名 複数回答可) 平成30年9月3日実施

①あなたが知っている税の種類を教えてください。

ア 所得税 (17名)	イ 消費税 (48名)	ウ 関税 (12名)
エ 固定資産税 (11名)	オ たばこ税 (3名)	カ 酒税 (1名)
キ 自動車税 (1名)	ク 住民税 (5名)	ケ ポテチ税 (1名)

②税はどのように (何に) 使っているか知っていますか?

- ・障害のある方や体が不自由な人のため (1名)・公務員の給料 (6名)・国や地方公共団体の建築物の建設や工事 (19名)・教科書 (11名)・年金 (15名)・国のため (8名)・国の借金を返すため (1名)・政治家の政治活動費 (2名)・知らない (4名)・国民のため (1名)

③税金は必要だと思いますか?

必要 (42名) 不必要 (9名)

④税金がなければ生活は楽になると思う。

思う (13名) 思わない (38名)

⑤税金の使い道は誰が決めているか知っていますか?

- ・知らない。分からない (20名)・大統領 (1名)・天皇 (3名)・内閣総理大臣 (13名)
- ・国会 (1名)・税務署 (1名)・国会議員, 県議会議員, 市議会議員 (7名)・国 (8名)

⑥税は誰が払っていますか?

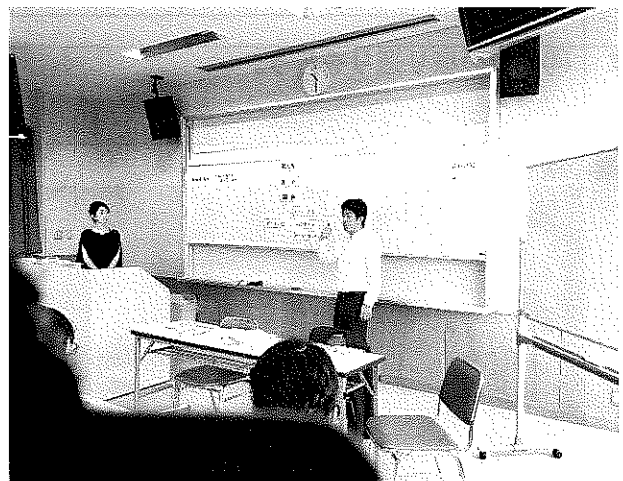
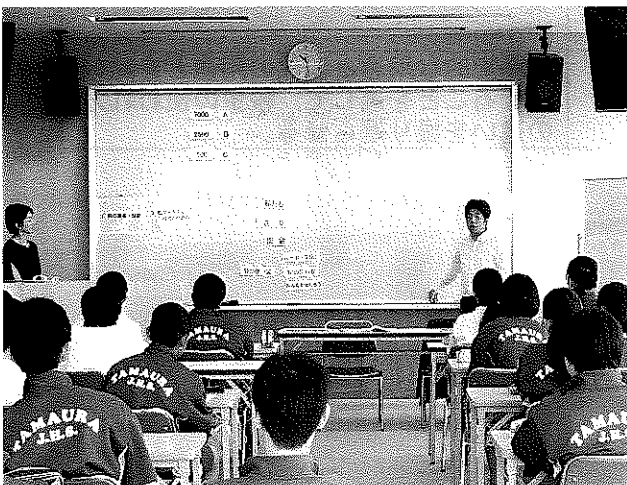
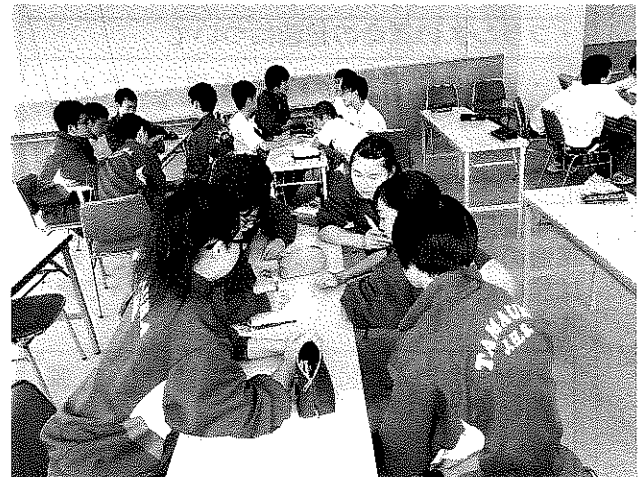
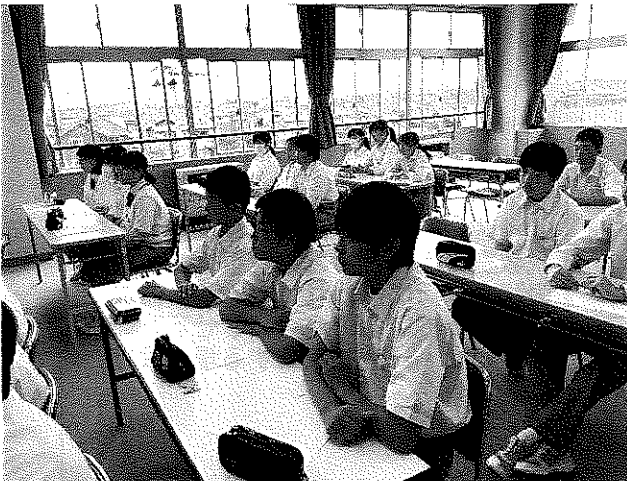
- ・全員 (国民, みんな, 市民含) (27名)・親 (2名)・若い人たち (1名)
- ・車を持っている人 (1名), 店を出している人 (1名)・家族 (2名)・社会人 (1名)

(2) 事前調査の考察

生徒は, 税に関する授業を行っていないこともあり, 税金の使い道やそれを決める組織について理解している生徒は少ない。税がなくなれば生活が楽になると感じている生徒も20%おり, 税が自分たちの生活の負担だと感じている様子も見られた。この結果から税のしくみについて正しく理解させ, 納税意識を高めさせる指導を行うべきだと考える。そのために, 2学年の歴史的分野の授業内で, 税の使い道を過去と比較させることで自分たちのために使われていることに気づかせたい。そして, 3学年の税のしくみの学習につながるように指導し, 中学校3年間を通しての体系的な租税学習を実施したいと考えた。

(3) 租税教室

- 1) 日 時：平成30年10月24日(水)
- 2) 対象生徒：2学年(56名)
- 3) 講 師：鈴木 茂之税理士
：伊藤 美紀税理士
- 4) 目 的：国民一人一人が税の制度や政策に興味を抱き、公正な判断力を育て、税を通して社会を考えることから民主主義に関する理解を深め、主権者として社会に主体的に参画する意志を育むこと。
- 5) 内 容：①税の意義・役割
 - ・税とは何か
 - ・財政②税から考える社会の仕組み
 - ・税の種類
 - ・ゲーム
 - ・税を通して見る民主主義



(租税教室の様子)

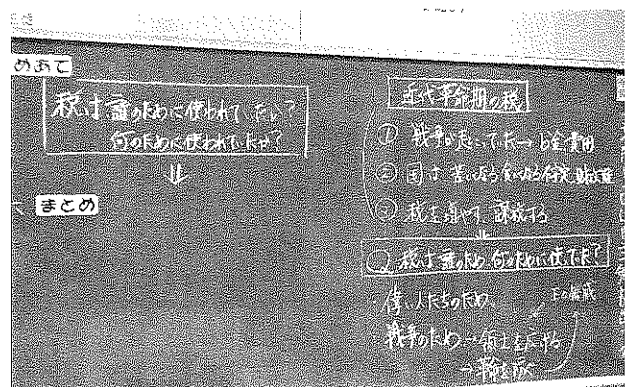
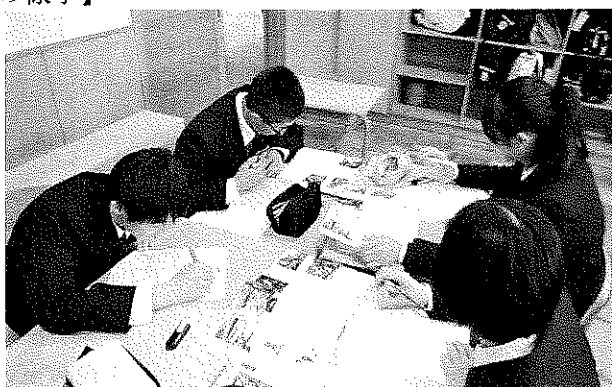
(4) 実践授業 社会科（歴史的分野）2 学年

「歴史的な税の使われ方～近代改革や戦争を事例に～」

- 1) 日 時：平成30年10月24日（水）
- 2) 対象生徒：2 学年対象
- 3) 題材名：「歴史的な税の使われ方～近代改革や戦争を事例に～」
- 4) 指導過程

段階	学 習 活 動	学 習 形 態	指 導 上 の 留 意 点
導入	①租税教室で学んだ現代の税制度の内容を復習する。	一斉	①過去の税制度と比較しやすいように、現在の税制度を確認しておく。
展開	<p style="text-align: center;">【本時のめあて】 税は誰のために使われているだろうか？</p> <p>②それぞれの国で起こった市民革命の復習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ独立戦争の起因について <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・イギリスの財政難に対して、植民地であったアメリカからの課税が実施された。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・イギリスの革命の起因について <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・フランスとの戦争によって財政難となる。それを解決するため、下の身分の者に重税を課す。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・フランスの革命の起因について <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・国王の住居である宮殿を建てるために課税を実施した。 ・イギリスとの戦争によって財政難となる。それを補うために課税を課す。 </div> <p>③学習活動②で復習した各国における市民革命の起因の共通点を思考する。また、税は誰のために使用されていたかについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・戦争によって起きた財政難に対して、課税を行っている。 ・昔の税制度は、王様や戦争のために使われていた。 ・税を納める人も一部の人だけであった。 ・納税した人のために使われていなかった。 </div>	<p>個人 ↓ ペア</p> <p>班 ↓ 発表 (一斉)</p>	<p>②手の止まっている生徒に対して、机間指導を行い、教科書を一緒に読み、読み取るポイントを絞らせる。時間を見て、ペアで確認する時間を確保し、多くの意見に触れ、意見を広げさせたい。</p> <p>④イメージのわからない生徒に対し、租税教室で学んだことを復習させ、現代の税金は何に使われているか、誰のために使っているのか考えさせる。発表を行わせ、一斉で確認する場を設ける。</p>
終末	④本時の振り返りを行う。	個人	⑤歴史的な用途と現代の用途とを比較させることを通して、税金の使われ方の違いを振り返らせる。

【授業の様子】



②授業を終えて（生徒の振り返りカードより抜粋）

あなたが納めて税金をどのように使用してほしいと思いましたか？

貴族や王様などの一部だけの人や、城、戦争で税金を使わないで、一般の人の生活をより良くするために税金を使ってほしいと思う。

あなたが納めて税金をどのように使用してほしいと思いましたか？

昔は税金を納めたりするのためにお金を使ったので、国が豊かで平和になるために使用してほしい。
 ・王様や貴族に使うのはよく、国民がこれから生活していくうえで、病院や学校などの施設に使用してほしい。

今日の授業を（今と昔の税金の使い方）振り返って、感想を書こう。

今は、国民が議員さんを決め、税金は国民のために使われているが、昔は一部の人だけに使われ、しかも城や戦争に使われていたと思うと、昔の人っていいなあと思った。
 また、二つに分けられることが分かった。税は日本の借金を返すのにも使われていることにびっくりした。

今日の授業を（今と昔の税金の使い方）振り返って、感想を書こう。

昔は、戦争に勝つ、たり、城、お城を攻めるためにお金を使ったか。現在は、国を攻めたりするために道路や病院などの施設を作るために使われているので、昔と今の税の使い方はすごく違って、たのびました。

あなたが納めて税金をどのように使用してほしいと思いましたか？

過去のイギリスやフランスなどのような貴族や王様などの偉い人のために使うのはやめてほしいと思いました。やはり、国民が払ったお金なので、そのお金は国民にとって得るものを使い方をしてほしいです。なので、現在のように交通のためや学校、病院など国民が日頃利用するような場面で使うのは大賛成です。これから税は上がっていくと思うかもしれませんが、今のように国民にとって良い使い方をしてほしいと思いました。

あなたが納めて税金をどのように使用してほしいと思いましたか？

・高齢者、子供で親がいない人、体に障害があり働けない人など、生活が苦しい人たちのために使、てほしいです。
 ・昔の税の使い方を学び、国民のためではないか知りました。なので、現在のように、病院や学校などの国民のための税の使い方を続けてほしいです。

今日の授業を（今と昔の税金の使い方）振り返って、感想を書こう。

昔からある税でも今とは全く使い方が違うと思いました。税は国民1人1人が払う大事なお金なので、身分が上だから特別などというところはやめてほしいです。身分が上の人だけ幸せなのはおかしいので、皆が平等に幸せを感じ、あたり前のように暮らせるようにしてほしいと思います。未来の日本のためにより良い税金の使い方をしてほしいと強く思いました。

今日の授業を（今と昔の税金の使い方）振り返って、感想を書こう。

税について、しっかり学び、今まで知らなかった税の種類や使い道、歴史について学ぶことができました。最初に税の種類を学んだ時は、何でこんなに税金を取られるかと思いましたが、その税の使い道を知り国民のためだと理解することができました。また、税の歴史を知り、税は国民のためのものだと思えて感じました。

あなたが納めて税金をどのように使用してほしいと思いましたか？

・現在の税の使われ方のように国民のため
 ・老後の生活のため
 ・教育費のため
 ・被災地の復興のため
 ・安定した生活のため
 ⇒ 国民1人1人のため

あなたが納めて税金をどのように使用してほしいと思いましたか？

1人という限られた人がぜいたくして、使用してもらうよりも、国民1人1人が過ぎしやすくなるように、使用してほしい。その方が、自分も過ぎしやすくなる。障害者の方でも不自由なく暮らせる生活をするこができるようにすると思う。目的を持って使用してほしい。

今日の授業を（今と昔の税金の使い方）振り返って、感想を書こう。

・今と昔は全く税金の使い方が違うと感じた。
 身分の階級に生かされてきたと感じた。
 ・税の種類がたくいぶんあった。

今日の授業を（今と昔の税金の使い方）振り返って、感想を書こう。

今日の授業を振り返り、税金の使い道が、かなり良くなったな、と改めて思いました。昔のヨーロッパは特に、身分の格差を利用して、税をたくさん取ることで、許さないと、思いました。その税金で、今長20kmほどの宮殿をつくらせる人が、今では信じられない、とも思いました。これからは、昔のような使い方をせず、国民1人1人が税を納め、不平等ではない国づくり、国が暮いやすいような国づくりをしてほしいです。

(5) 税に関する実態事後調査の結果 (55名 複数回答可) 平成30年10月29日実施

①あなたが知っている税の種類を教えてください。

ア	所得税 (24名)	イ	消費税 (49名)	ウ	関税 (12名)
エ	固定資産税 (24名)	オ	たばこ税 (25名)	カ	酒税 (24名)
キ	自動車税 (18名)	ク	住民税 (21名)	ケ	ポテチ税 (1名)
ク	法人税 (2名)				

②税はどのように (何に) 使っているか知っていますか?

- ・障害のある方や体が不自由な人のため (8名)・高齢者 (年金や介護含) のため (15名)
- ・公務員の給料 (3名)・国や地方公共団体の建築物 (学校・病院・道路など) の建設や工事 (37名)
- ・教科書 (11名)・国の借金を返すため (1名)・治安の維持 (2名)・救急車 (6名)
- ・国のため (9名)・国民やみんなのため (17名)

③税金は必要だと思いますか?

必要 (54名) 不必要 (1名)

④税金がなければ生活は楽になると思う。

思う (8名) 思わない (47名)

⑤税金の使い道は誰が決めているか知っていますか?

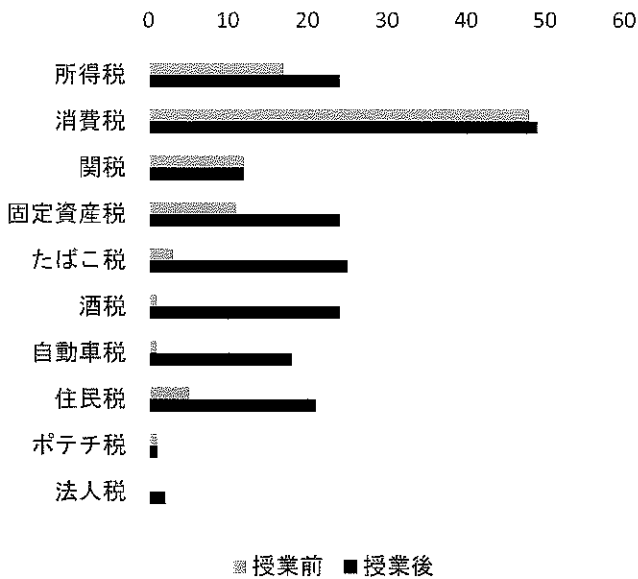
- ・知らない。分からない (1名)・内閣総理大臣 (5名)
- ・国会 (4名)・国会議員, 県議会議員, 市議会議員 (21名)・国民 (16名)・国民が選んだ人 (3名)

⑥税は誰が払っていますか?

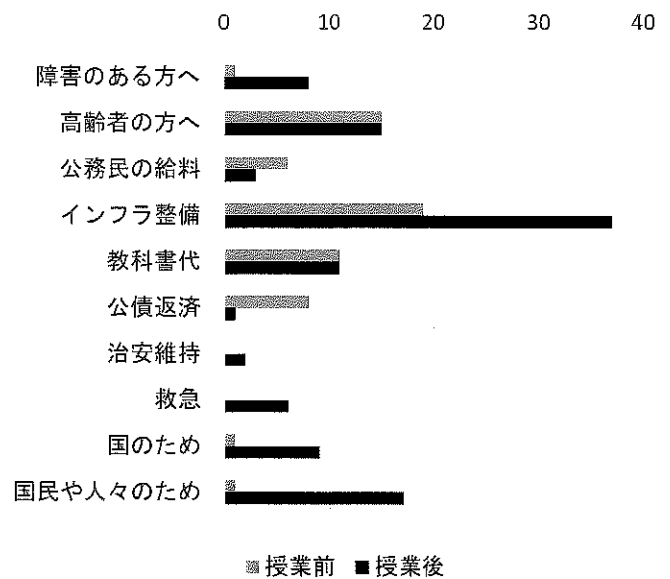
- ・全員 (国民, みんな, 市民含) (53名)・親 (2名)

8 税に関する意識の変容

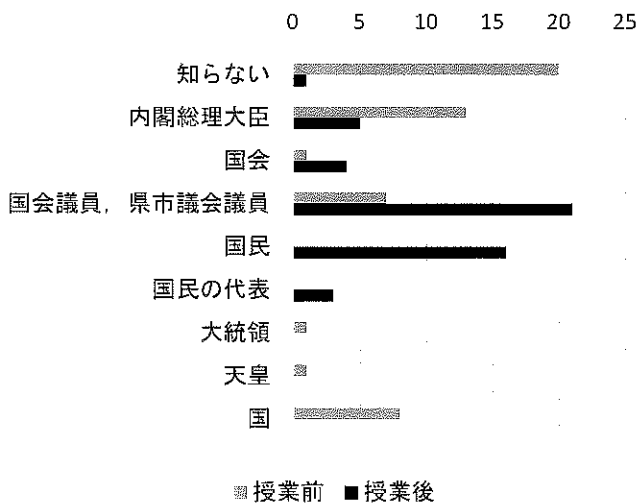
生徒の知っている税の種類 (単位：人)



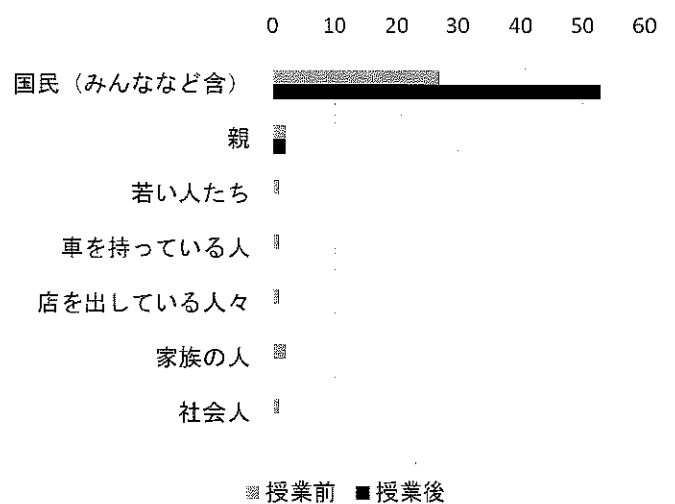
税の使われ方について (単位：人)



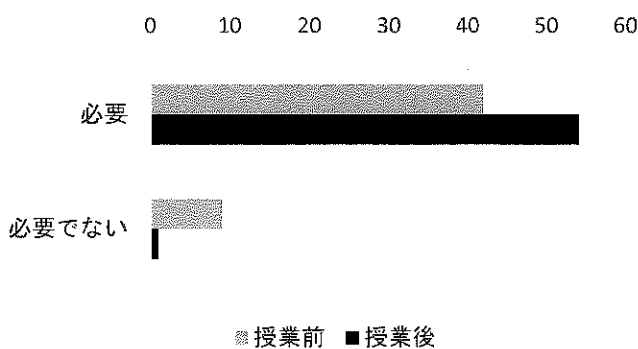
税金の使い道は誰が決めているか (単位：人)



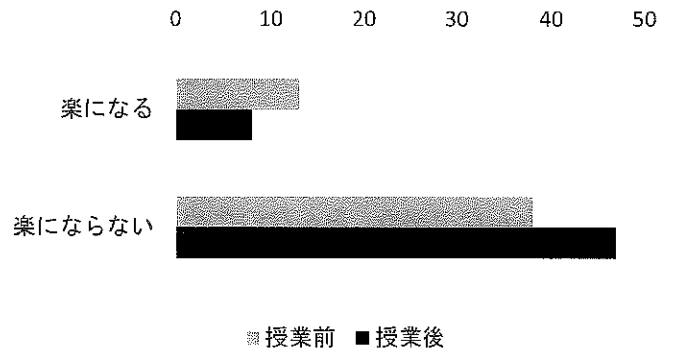
税金は誰が払っているか (単位：人)



税金は必要か (単位：人)



税金がなくなれば生活は楽になるか (単位：人)



9 成果と課題

(1) 実態調査から (参照 : P33)

租税教育の実践前(9月)に実施した実態調査と租税教育後(11月)を比較すると、生徒一人一人の知っている税の種類が明らかに増えている。また、税金の使い道について、国民や人々のためと回答する生徒が増加していることから、税金が自分たちにも使われているということに気づけた生徒が増えたことが読み取れる。さらに、税金の使い道を決めるのは、国民や国民が選んだ国会議員や県議会議員だということを理解した生徒が増えており、税金は知らないところで使われているのではなく、国民の民意によって決められているということに気づかせることができた。税金は必要ないと思っていた生徒や税金がなくなれば生活が楽になると思っていた生徒が減っていることから、税金によって私たちの生活がよりよくなっていると感じさせることができた。しかし、実践後も税金は生活を苦しめていると感じる生徒も相変わらず残っていたり、税金の使い道を決めるのは、自分とはほど遠い人物だと思っている生徒もおり、理解が不十分であった点も挙げられた。

(2) 授業実践から (参照 : P30-⑤)

かつての税は、王様や貴族の生活のために使われていたり、戦争の費用として集められたりしていたことに驚く生徒が多くいた。そのことから、税金は誰のために納めるべきなのか、何に使うべきなのか、自分の意見を記述する生徒も見られ、税金のあり方について考える様子が見られた。また、過去との比較を通して現代の税制度について何に使用されているのかについて調べる生徒もおり、3学年での公民的分野の学習につなげることができたのではないかと思う。

(3) 今後の指導に向けて

今回の租税教育では、2学年における租税教育のあり方について実践した。租税教育というと中学校では3学年で行うものというイメージが強く残っているが、本実践を通して、1学年、2学年と中学校3年間を見通した租税教育の体系化が必要であると感じた。課題も数多く残る形となったが、今後、今回2学年で学んだことが、来年どのような形で生きていくのか、租税教育の指導を継続して行い、よりよい主権者となるよう、また学習指導要領の定める社会科の目指す公民の育成に尽力していきたい。

租税教育を終えた生徒の感想

- ・国民が便利で幸せな生活を送るのに、税金が関わっていると分かったから税金は必要だと思った。
- ・私たちの周りには、税金のおかげで生活できていることが分かった。
- ・税金がなくなって私たちが日常生活で使っている施設にお金がかかると、環境が悪くなっていくと思う。
- ・生きていく上で必要なものに税金が使われているから必要だと思う。
- ・税金がないと暮らしていけない。
- ・税金は必要だと思った。理由はみんなが安心して生活できなくなるから。
- ・税金がないと自己負担が増えて、生活が不便になったり、暮らしていけなくなると思った。
- ・一年あたり一人の教育費に100万円近くかかっていることを知り、学校に通えなくなると思った。
- ・何でこんなに税をとるのか分からなかったが、使い道を知って、国民のためだと理解し、納得した。
- ・税金は大切なお金なので、昔のように身分の上の人だけに使うのはやめてほしいと思った。未来の日本のために、よりよい使い方をしてほしいと思った。
- ・税金はみんなでお金を出し、みんなのために使うべきだと思った。
- ・自分が納得する税金の使い方をしてくれる人に投票しようと思った。

平成30年度 租税教育に関する研究発表要項

亘理町立荒浜小学校
教諭 高橋 洋彰

1 研究主題

税への興味・関心を高め、正しい知識と納税意識をもった子どもの育成

～児童自らが課題をもち、調べる活動を通して～

2 主題設定の理由

納税は、日本国民の三大義務の一つであり、社会が成り立つために必要不可欠なものである。税を納めることで、道路整備等の日常生活に関することに限らず、医療費や救急等の緊急時にも恩恵を受け、安心して生活することができている。また、義務教育が無償で提供される等、税金を使って、文化的な生活の礎ができているとも言える。

一方、税金に対する児童の知識は乏しく、無償で配付される教科書や、学校等の公共・共同の設備に税金が使われていることを、児童はよく理解できていない。テレビのニュース等を毎日見ている児童は多く、税金についての話題を耳にする機会はあると思われるものの、税金を身近なものと感じていないのが現状である。

今回、公職選挙法が改正となり、選挙権が18歳に引き下げられたことで、6年生の児童が実際に社会の一員となり、投票権を行使できるようになるのは6年後である。今まで以上に、社会の仕組みについて知り、社会参加への関心を高める必要がある。これらのことを踏まえ、世の中がどれだけ税金に支えられているかに気付かせ、税金の意義や役割について学習させることは、社会の一員として生きていくために非常に大切であると考えます。

そこで、税金について児童が自ら課題をもって調べ学習を行わせることで、税金に対する興味・関心を高めさせたい。さらに、税金の意義や役割等について正しい知識を身に付けさせることで、税金の大切さに気付かせ、納税意識をもたせることができるのではないかと考え、本主題を設定した。

3 研究目標

税金に対する興味・関心を高め、税金の意義や役割を理解し、将来において適切に納税をしようとする態度を育成する指導の在り方を探る。

4 研究の方法

- (1) 税金に対する意識調査を行い、児童の実態を把握する。
- (2) 租税教室を通し、税金についての基本的な知識を身に付けさせる。
- (3) 「わたしたちのくらしと税金」(宮城県租税教育推進協議会、仙台国税局発行)を活用し、租税教室で学んだことを生かして、児童に課題を設定させる。
- (4) 課題に対してより広く、深く調べさせるため、内容が似通った課題を設定した児童同士のグループを作らせる。グループごとにインターネット等を活用して調べ、プレゼンテーション形式でまとめさせる。
- (5) 発表会を行い、調べた内容を共有し、知識を広げる。
- (6) 分かったことから、自分の考えやこれからの思いについてまとめさせる。
- (7) 事後調査を行い、変容を考察する。

5 研究の計画

年	時期	研究内容
平成29年	11月中旬	事前意識調査・分析
	11月29日(水)	租税教室(仙台南間税会 日下重紀氏)
	12月	課題設定, 調べ学習
平成30年	1月~2月	(調べ学習), まとめ
	2月16日(金)	発表
	2月	事後意識調査

6 指導計画

段階	主な学習内容	時間
①事前意識調査	・調査紙を用い, 児童の税に対する意識を把握する。	
②税金について知ろう	・租税教室で基本的な税の知識と, 意義や役割等について知る。	1
	・「わたしたちの暮らしと税金」等の資料を活用し, 税に対する理解を深め, 課題を設定する。	1
③税金について調べよう	・税についてさらに詳しく調べたいと思ったことについて, 個人で調べる。	1
	・似通った課題を設定した児童同士でグループを作り, インターネット等を活用して課題について調べる。調べたことをプレゼンテーション形式にまとめる。	3
④調べたことを伝えよう	・発表会を行い, 調べた内容を友達同士で共有する。	1
⑤事後意識調査	・児童の税に対する意識の変容をみる。	

7 研究の概要

(1) 児童の実態 (事前意識調査)

(平成29年11月実施 対象: 6年1組 男子13名 女子6名 計19名)

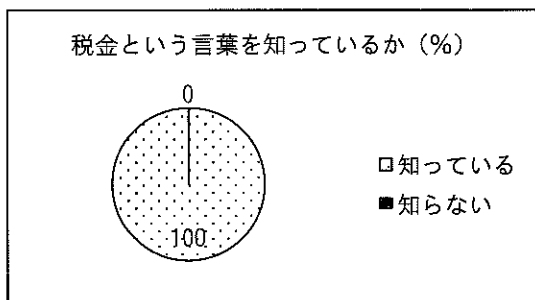


図1

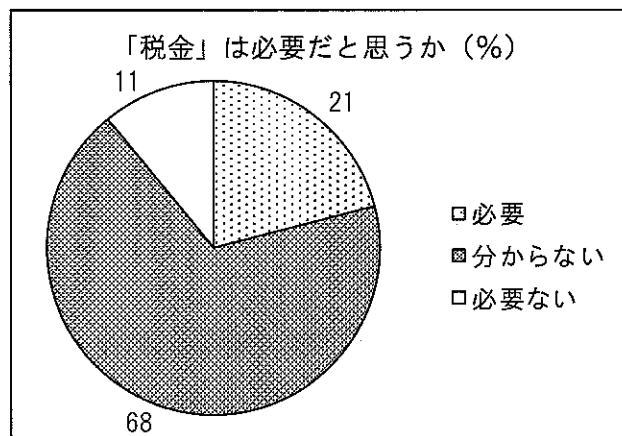


図2

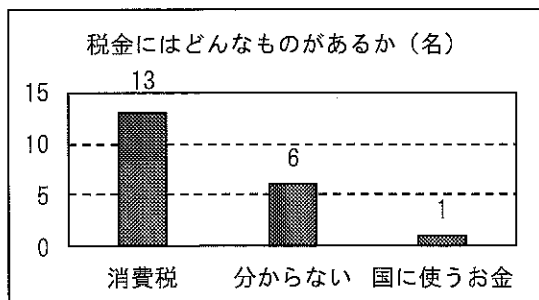


図3

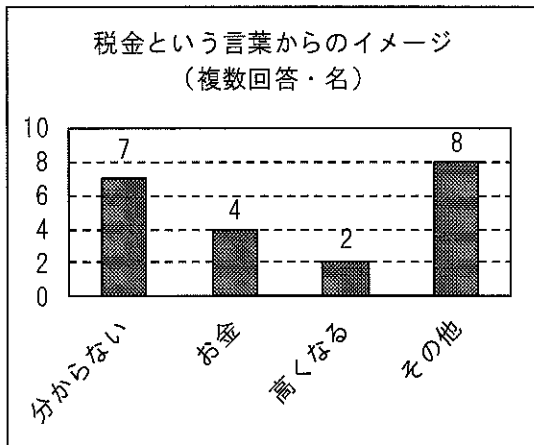


図4

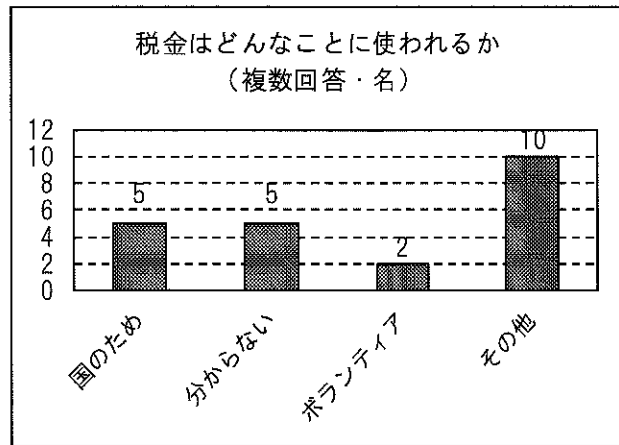


図5

【考察】

- ・税金という言葉は全員が知っているものの、税金の使われ方や必要性について、正しく理解している児童はほとんどいない。(図1, 2, 5)
- ・どの質問項目においても、「分からない」と回答する児童が多かった。特に、必要性に関しては、「必要」「不必要」と回答した児童も、「どちらかといえば」で回答しており、税金についての知識や理解が少ない児童が多いことが分かった。(図2)
- ・生活の中でよく耳にする「消費税」を、「知っている税金」として挙げる児童がいたものの、その他の税について知っている者はいなかった。「消費税」も全員が挙げたわけではなく、税金を身近なものとして捉えているとはいいがたい状態である。(図3)
- ・「税金=みんなのためのもの」というイメージはなく、むしろ「(税率が)高くなる」や「(代金が)高くなる」といった、マイナス面のイメージが見られた。(図4)
- ・税金の使われ方に関しても、漠然とした回答や、正しくない回答が目立った。(図5)

以上のような児童の実態から、税金についての正しい知識を身に付けさせる必要があると考えた。

(2) 実践の概要

【第1時】租税教室 (平成29年11月29日)

仙台南法人会の日下 重紀 氏を講師として招き、税金の種類や必要性等、基本的な税の意義や役割等について学習した。講師が、児童にとって捉えやすい「消費税」を話題として取り上げたことで、児童も学習したことをよく理解し、税金を身近に感じるようになった。また、DVDアニメ「マリンとヤマトの不思議な日曜日」を視聴したが、視聴前に「税金は必要ない」と挙手した児童も、視聴後は「必要」に挙手する等、税金の必要性を感じる事ができた。

また、最後に1億円分の札束のレプリカを持ち、その重さと大きさを体感する等、児童の関心を引き出しながら、学習が進められた。

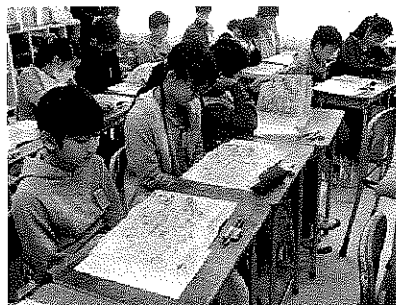
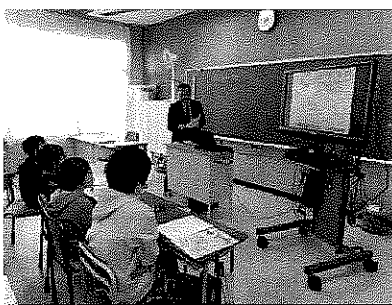


写真1 租税教室で、税金の内容について学ぶ児童

租税教室を終えた時点で、児童から出た調べたいことについては、以下のようなものである

- ・他にどんな税金があるのかを知りたい。
- ・消費税について調べたい。
- ・税金はいつからあったのか。
- ・外国の税はどんなものがあるか。

この時点では、児童全員が調べたいことをもつことができたわけではなかった。内容については「税金の種類」について調べたいという児童が多かった。

【第2時】税に対する理解を深め、課題を設定する

「わたしたちのくらしと税金」(宮城県租税教育推進協議会、仙台国税局発行)を活用し、租税教室で学んだ内容を確認しながら、さらに理解を深める授業を行った。

そして、今後は「自分が税について、さらに調べたいことを深め」、「調べた内容を、分かりやすく説明する発表会をする」という学習の流れを説明した。

児童から出た調べたいことについては、以下のようなものである。

- ・税金には、他にどんなものがあるか、どのように集められているかを詳しく調べたい。
- ・分かりづらい税金の内容を説明したい。
- ・どうしてこんなに多くの種類の税金が必要なのか。
- ・外国の消費税が、どうしてこんなに高いのかを知りたい。
- ・より多くの国の消費税率について調べたい。
- ・その時代によって、どんな税金があったのか等、歴史について知りたい。
- ・互理町では税金がどれくらいあるのか、どう使っているのか。
- ・国の税金は誰が使い方を決めて、どのように使っているのか。

理解を深める授業を行ったことで、児童の調べたいことの範囲が広がったり、より明確になったりした。また、全員が自分が調べたいことを決めることができた。

【第3時】個人での調べ学習

個人で調べる時間を1時間設定し、まずは自分が税について興味をもったことを調べる時間をとった。調べたいことの数には個人によって違いがあり、調べる内容の難易度も様々であった。

そこで、以下のような手立てをとった。

- ① 国税庁のホームページから始めること(そこで解決する課題が多かったため)
- ② 友達同士で自由に情報交換、共有をしてよいこと(より広く、深く情報収集するため。また、関心の範囲を広げるため。)

自分の知りたいことが、友達の写真資料で分かったら、それを基にして、次の課題解決へとつなげるようにした。

多くの課題は、国税庁のホームページで解決することができた。そこで次は、発表に向けての準備として、要点をまとめたり、難しい言葉を分かりやすくするために辞典で調べたりしていた。



写真2 課題が似通っているため、情報共有をしている児童

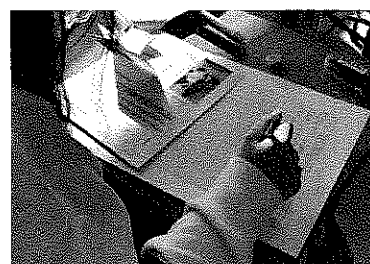


写真3 資料を基に要点をまとめる児童

【第4・5・6時】グループでの調べ学習・発表準備

似通った課題を設定した者同士でグループを作った。その結果、以下のような5グループに分かれた。

- | | | |
|--------|-------|----------|
| ・税って何？ | ・税の歴史 | ・消費税について |
| ・税の種類 | ・税の未来 | |

・調べ学習

個人で調べた内容をグループ内で共有し、さらに出てきた課題や疑問点についてさらに調べる活動を行った。また、資料作成を見据え、より分かりやすい資料を検索したり、一つの税について深く調べたりしていた。

・プレゼンテーションの準備

発表ではプレゼンテーション形式を採用した。グループ内で分担し、原則一人1枚プレゼンテーションのシートを作成することで一人一人が活動できるようにした。壁新聞のように校内で集まって作成しなければいけない形式ではなく、個人で原稿や提示資料を作る形式をとることで、家庭での自主的な活動や放課後の活動等、児童の都合に合わせて作成できるようにした。

プレゼンテーション作成のために3時間の時数を確保したが、資料の作成は個人で進められていたので、授業中は「資料の見やすさ」や「原稿の分かりやすさ」について確認し、修正するグループが多かった。

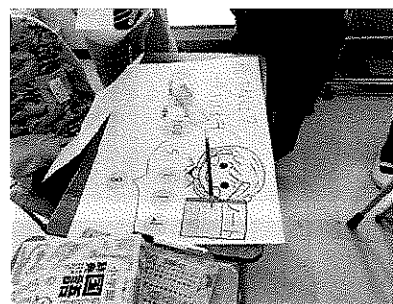
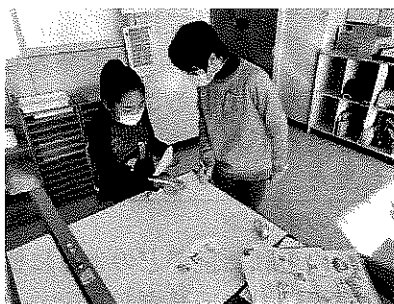
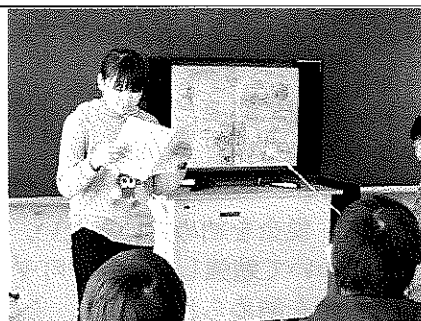


写真4 グループで相談しながら、プレゼンテーションの資料を作成する児童

【第7時】税についての発表会

2月16日（金）の授業参観で発表を行った。これは、児童の調べ学習や発表への意欲向上のためであり、さらに家庭でも税に関する話題としてほしいという考えで、保護者の前で発表させることにした。

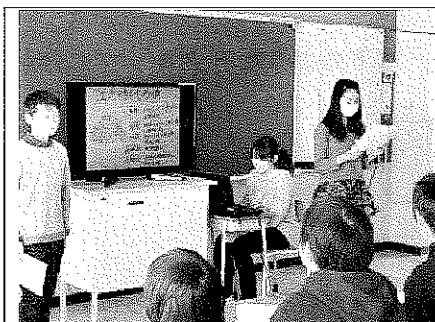
他グループの発表を聞くことで、今まで知らなかったことに気付くことができた。「外国ではソーダやポテトチップスにも税をかけるなんてびっくりした。」「税は本当に必要なものだと改めて分かった。」等の感想が聞かれ、税の必要性に気づき、税の意義（社会保障に使われている、健康増進のために使われている等）について、多くの児童が理解を深めることができた。



<税って何？>

税金が、住民の公共サービスに使われていること等を発表した。写真の児童は、警察や消防の働きや学校施設の補修に、税金が使われていることを発表している。

発表の中で、税金の使い道を決めているのは自治体の議会であること、その議員を選ぶのは国民による選挙であること、だから「投票に行く必要がある」という意見を述べた。



<税の歴史>

日本の歴史の中ではどんな税があり、どのような仕組みで集められたかを発表した。

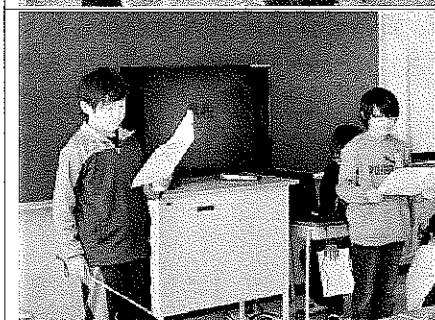
租・庸・調のように教科書で出てきた税から、現代の税制である「源泉徴収制」や「申告納税制」まで、各時代の税について説明した。聞いている保護者からも、「そういう仕組みなのね」と、納得する声が聞かれた。



<消費税について>

日本における消費税と、外国における消費税（付加価値税）の比較が中心となった発表であった。

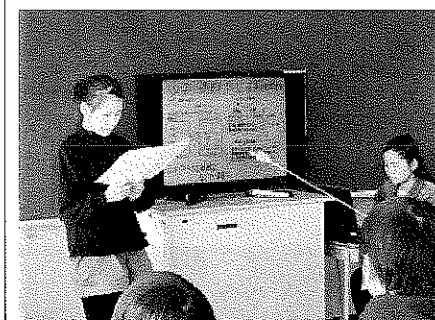
8%という日本の消費税は、世界に比べると低い割合である。割合がもっと高い国では、その分社会保障が充実している。だから、消費税増税も生活のためには必要だという意見を述べた。改めて増税が迫っていることに驚く児童もいた。



<税の種類>

たくさんの税を、国税・県税・市町村税の3つに区分し、それぞれの税について説明をした。

それぞれの県で独自の税制があること、トン税等のあまり知られていない税があることを発表した。また、入湯税等、消費税以外にも身近な税があることの説明ができた。税の種類は多くの児童が関心をもっており、「そんなのにも税がかかるのか」と驚く様子が見られた。



<税の未来>

納められた税がどのように使われるかということや、これからの税収等について発表した。

自分たちのためだけでなく、恵まれない国のために税金が使われていることを、初めて知った児童が多かった。

写真の児童は、少子高齢化等の社会の変化によって、税収が減っていくという問題について発表している。

発表会を終えての、児童のまとめについては、以下のようなものである。

- ・税金は、国や町のため、みんなの生活のためにちゃんと使われていることが分かった。
- ・少子高齢化の問題が、税収にも関係してくるということに驚いた。
- ・所費税率が低いのと、社会保障が充実しているのはどっちがいいか考えてしまった。
- ・税の種類が多さに驚いた。自分でももっと調べてみたい。
- ・自分は「税金」に対してあやふやでよく分かっていなかったけど、今は仕組みなどが理解できて、「税金」を身近に感じられるようになった。
- ・税金がなければ、日本中が大変なことになっていたかもしれない。絶対に必要だと思う。
- ・大人になると、税金を払う機会が増えることが分かった。しっかり納めたい。
- ・税金がないと本当に大変なんだと分かった。税金を忘れずに納めたい。
- ・税金は生活にも環境にも関係があるから、もっとみんなで協力して、税金を納めていきたい。
- ・最初は税金の使い道が分からなかったので不安だったけど、税金について勉強して、国や町やみんなのために使われていることが分かった。これで、安心して税金を納められる。

【その他】税に関する絵はがきコンクールへの応募

税に関して学習してきたことを生かし、冬休みの課題として作品を作成させ、「税に関する絵はがきコンクール」へ応募させた。税への関心を高めたり、学習したことを振り返らせたりするのに有効であった。

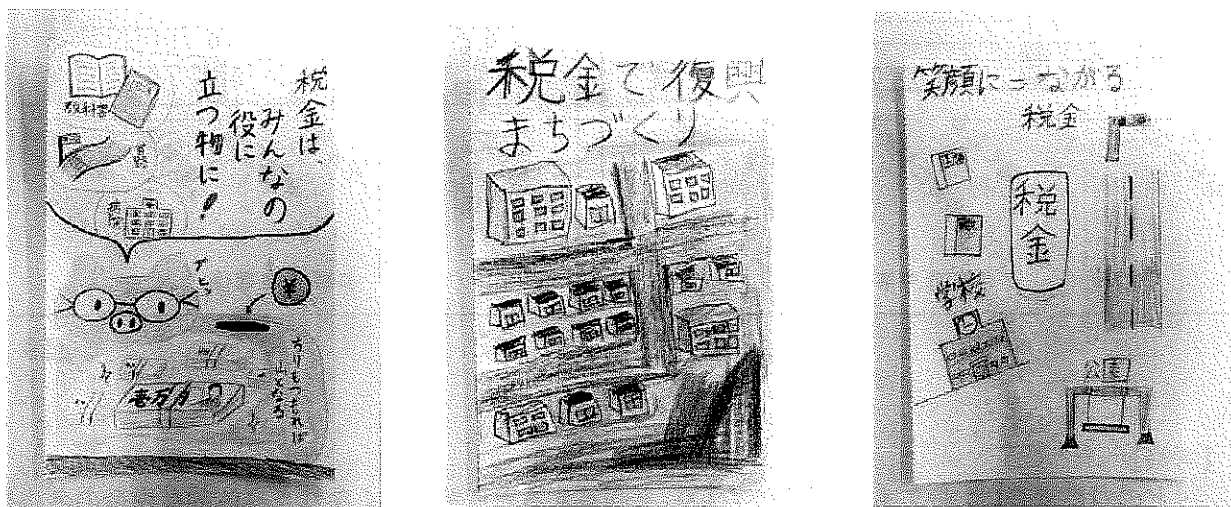


写真5 「税に関する絵はがきコンクール」への応募作品

(9) 児童の変容 (事後調査) (平成30年2月 6年1組 男子13名 女子6名 計19名)

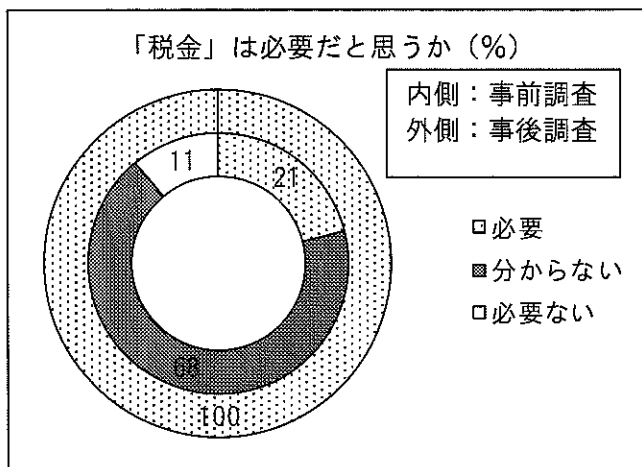


図6

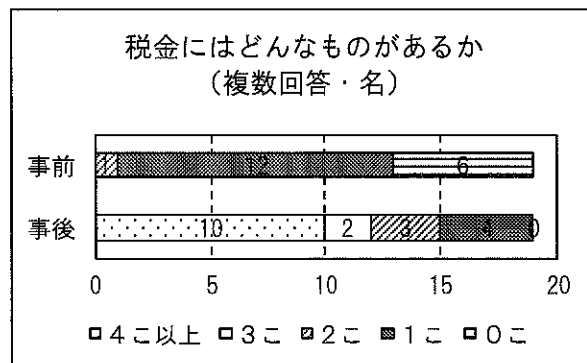


図7-1

児童から出された税金の例

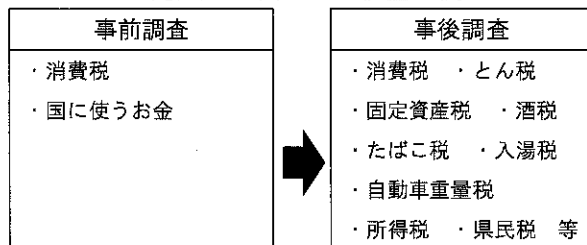


図7-2

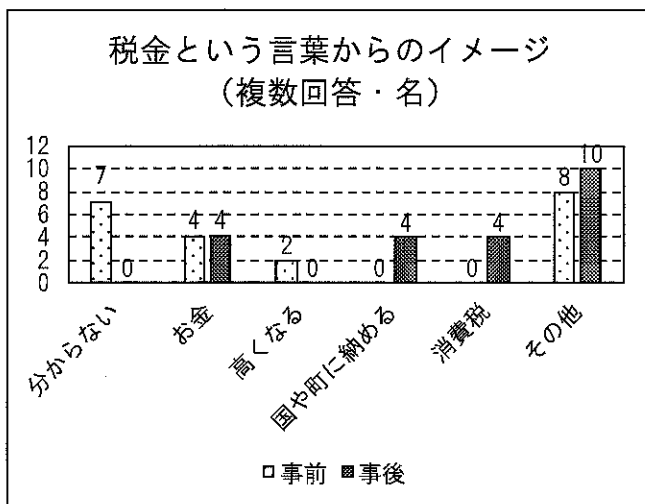


図 8

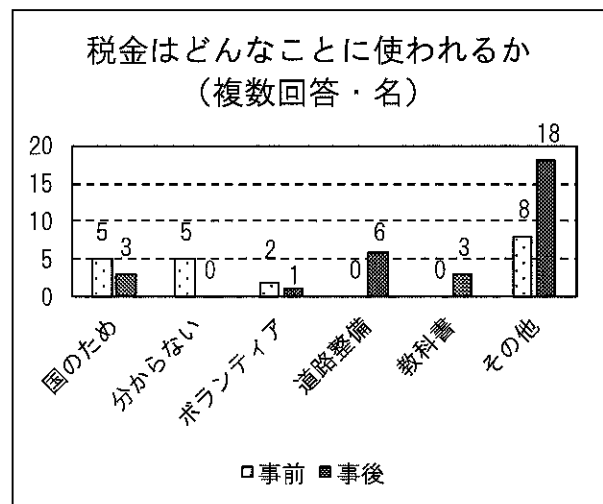


図 9

【考察】

- どの質問項目においても、「分からない」と回答する児童がいなくなり、具体的な税金の名称を挙げたり、理由を挙げて回答できたりする児童がほとんどで、知識が身に付いたことが分かる。(図7・8・9)
- 必要性に関しては、「必要」「どちらかといえば必要」と回答した児童は100%であった。しかも、「みんなの幸せのために必要」や「より良い生活をしていくために必要」といった、明確な理由を挙げており、税金の大切さ、必要性が身に付いた。(図6)
- 「税金にはどんなものがあるか」という質問への回答の内容を見ると、税金の種類が増えた。回答で見られたのは、「たばこ税」「酒税」「とん税」等であった。種類について調べたことが、情報として共有されている。(図7)
- 税金の使い方については、「道路整備」や「教科書」等、具体的な回答が見られた。それ以外にも、「医療費」等、自分たちにとって身近な使い方の回答が見られた。(図9)

8 成果と課題

(1) 成果

- 学習の前に税に対する実態調査を実施したことで、児童の税に対する知識や理解度を把握することができ、実態に応じた指導を考えることができた。また、事前・事後の調査を行うことで、比較し、変容を確かめることができた。
- 租税教室で税についての知識を身に付けてから調べ学習を行ったため、課題が比較的適切に設定でき、調べ学習を進めることができた。また、最初に個人で調べ学習を行ったことで、グループ活動に入っても人任せではなく、主体的に活動することができた。
- グループ活動を取り入れたことで、個人では集められなかった情報も共有することができ、話し合いながら学びを深めることができた。
- 保護者の前で発表をさせる場を設定したことで、自分が学んできたことを意欲的に伝えることができた。また税金や社会の仕組みについて、家庭で話題にするきっかけにつながった。
- 事後の実態調査で「税金は必要だと思うか」の項目に、全員が「必要である」と回答した。調べ学習の中で、税金の必要性や重要性を理解することができた。
- 児童の発表の中で、納税に限らず、選挙や少子化についての発表もあった。その後の公民分野では、選挙への参加意欲や、政治について考える意欲が高まった。
- 事後調査において、税金について家庭で話題にしたという児童は2名であった。しかし、「事業」をしている自分の家でも、消費税を納めているか尋ねられた」等の話を話題にしたと、回答した児童以外の保護者からも聞いており、税に関して、関心をもたせることができたと考えられる。

(2) 課題

- ・租税教室に至るまでの普段の社会の授業の中でも、もっと税について注目させる手立てを講じるべきであった。事前の知識が多ければ、より深い学びにつながったと考えられる。
- ・主にインターネットを活用して調べ学習を行ったが、インターネット上の不確かな情報を取り入れる児童もいた。インターネット以外にも、活用できる図書資料等を充実させる必要があった。
- ・児童の課題に対して、適切なアドバイスができるよう、教師自身も、必要な知識を身に付けなければいけないと感じた。
- ・租税教室だけでなく、調べ学習等の中でも、税務署等の外部専門機関との連携を取るべきであった。

平成30年度 租税教育に関する研究発表要項

山元町立山下第一小学校

教諭 名取 富江

1 研究主題

児童が税に対する興味・関心をもつための指導の工夫
～総合的な学習の時間「税金ってなんだ」の学習を通して～

2 主題設定の理由

6学年の児童にとって税に関する知識は、歴史の学習における「租・庸・調」や「年貢」、「地租改正」といったものがほとんどである。また、日本国憲法の学習にもまだ触れていない児童にとって、納税の義務が国民の三大義務に当たることは、分からないのが現状である。

そこで、5学年の段階で租税教室に参加し、税の基本的な知識に触れ、6学年において「わたしたちのくらしと税金」の副読本を使って税についての学習を行い、税金の種類や使われ方を調べる活動を設定することで、児童の興味・関心が喚起され、意欲をもって税金について学習に取り組めると考え、本主題を設定した。

3 研究目標

税金の種類や使われ方などを調べる活動を通して、税に対する物の見方や考え方もつことのできる学習活動をすれば、税に対する興味・関心を高めることができると考える。

4 研究の方法

- (1) 「租税教室」に参加し、税についての学習の導入を行う。
- (2) 小学校社会科用学習資料「わたしたちのくらしと税金」を活用する。
- (3) 興味・関心のある税金の種類について調べ、課題設定をする。
- (4) 課題について本やインターネットを使って調べ、友達と伝え合う。
- (5) 深く調べてみたい税金について類似課題同士でグループをつくり、調べ、まとめる。
- (6) 学級や下級生に発表し、調べた内容を共有したり、発信したりする。
- (7) 身近に税が使われていることを知り、税に関する意識の変容をまとめる。

5 研究計画

平成30年1月	租税教室（講師 鈴木隆さん 日下重紀さん）
平成30年5月	実態調査
6月	授業実践①
10月	授業実践②
11月	授業実践（総合的な学習）研究のまとめ 研究発表会

6 研究の概要

(1) 学習計画 (総合的な学習 10時間)

	次	主な学習活動	時数
5学年時	1	租税教室 (講師 鈴木隆さん 日下重紀さん)	1
6学年時	2	意識調査	
		授業実践「わたしたちの暮らしと税金」	1
		税金の種類について調べ、課題設定。(個人)	2
		課題解決のため、インターネットを使って調べる。(個人)	2
		課題別グループによるまとめ、発表会	3
	3	税金の使われ方を知る 意識調査	1

(2) 実践の概要

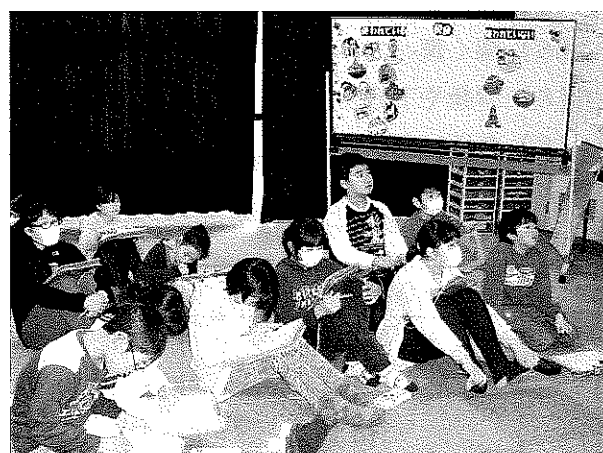
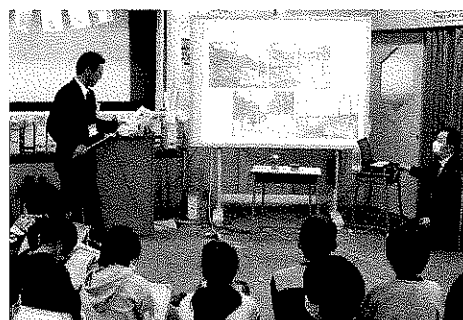
【第1次】5学年時：租税教室 (平成30年1月12日)

<講師：鈴木 隆さん 日下 重紀さん>

仙台南間税会の方においでいただき、スライドを使いながら税金とは何か、どんなことに使われているのかなど基礎的な税金の役割について詳しく教えていただいた。

DVD「マリンとヤマトの不思議な休日」の視聴では、税金がないとどのような暮らしになるのか知ることができた。

また税金を使っているものにはどのようなものがあるか、分類する活動を通して、より、税金がわたしたちの暮らしに役立てられていることを学ぶことができた。



●租税教室後の感想等

- ・税金がないと、火事になったときにたくさんのお金がかかり大変になる。
- ・わたしたちの生活の中には、税金を使っているものがたくさんあると感じた。
- ・外国にも消費税がある。
- ・道路や公園などの整備にも税金が使われていることが分かった。
- ・たばこにもお酒にも税金があることを知った。他にもどんなものがあるのか知りたい。

【第2次】6学年時

◎税に対する事前調査（平成30年度 6年1組 男9名 女8名 計17名）

平成30年6月実施

質問1 「税金」という言葉を知っていますか。	はい15名	いいえ2名
質問2 税金についてどんなものがあるか知っていれば書いてください。（複数回答可）	・消費税9名 ・たばこ税3名 ・関税2名 ・酒税2名 ・国税 ・所得税 ・固定資産税 ・復興税 ・森林税 ・	
質問3 納めた税金はどんなことに使われていますか。（複数回答）	教材 人を助けるため 国のこと 町のため みんなのため（くらしを守る） 公共の施設（国の建もの 学校 病院 公園） ライフライン（道路工事 信号機）	

上記の結果から、5年時に租税教育を受けたこともあり、「税金」という言葉を知っていると答えた児童がほとんどであった。また、税金がわたしたちの生活のために使われていることもつかんでいると言える。しかし、税金の種類はどれくらいあり、税がどこに納められ、使い方がどのように決められているのか分からない実態であるということが分かった。

そこで、税金の種類を調べる活動を通して、その税がどのような事業の財源となって、どのように使われているのかを理解させる必要があると考えた。

①わたしたちのくらしと税金（1時間）

小学校社会科用学習資料「わたしたちのくらしと税金」を使って、税金にはたくさんの種類があることや消費税の仕組みはどのようにになっているのかを学習した。税金を納めている人は、大人やお店人だけではなく、国民（わたしたち）であることを理解した児童が増えた。



②税金の種類にはどんなものがあるのか調べてみよう（2時間）



インターネットを使って、数ある税金の種類の中から興味・関心のある税金についてどのような税金なのか調べた。

児童が、興味・関心を示した税金は、ゴルフ場利用税、入湯税、たばこ税、ふるさと納税、自動車税などである。

また、明治時代にあったウサギ税についてなどの紹介があった。

発表を聞いた5年生からは、

- ・自動車税は排気量によって納める税金が違うことや、納めないと懲役や罰金などの罰則があることも分かった。
- ・ふるさと納税のことがよく分かった。
- ・お酒の種類によって税金があることが分かった。
- ・温泉に入るのにも税金があると分かった。

などの、感想が出た。

【第3次】

税金の使われ方を知ろう（1時間）

児童が調べた様々税金が、国や県、町などでは、どのように使われているのか毎日小学生新聞と「わたしたちのくらしと税金」を使って学習した。

小学生も払う消費税 8%→10%へ

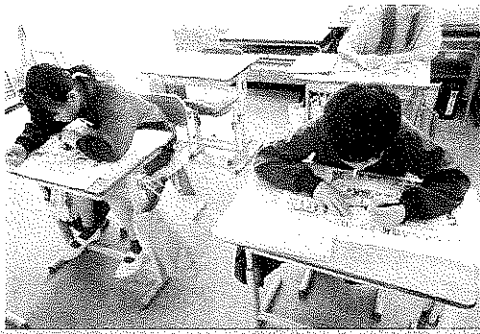
増税まで1年ほど、課題は?

消費税ってどんな税?

外国にも消費税はあるの?

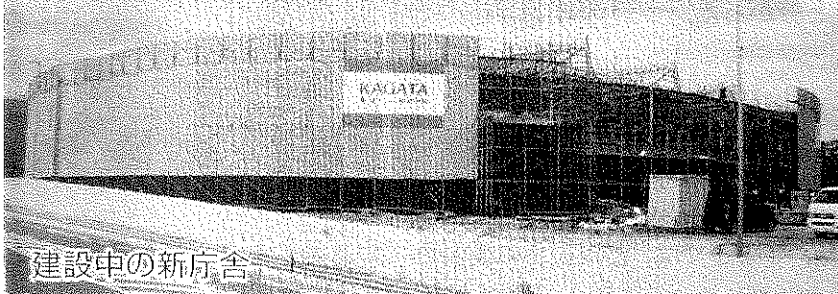
増税するのはどうして?

「毎日小学生新聞」ニュース知りたいんジャー（平成30年10月31日掲載）



導入段階で児童に記事を読ませ学習を進めた。見出しや小見出しを手がかりに消費税増税の理由や日本の現代社会の問題である「少子高齢化」について読み取り、増税について学習した。

展開段階で、以前学習した「わたしたちの暮らしと税金」を基に、消費税が、国と地方に一定の割合で納められていることを確認した。

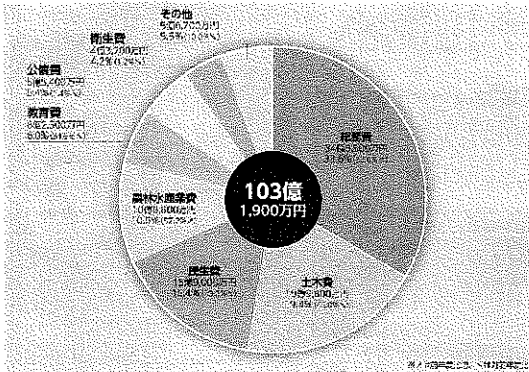


建設中の新庁舎

まず、国の予算の約3割が社会保障費に使われていることや、山元町の新庁舎の建設には国からの災害復興交付金をもとに建設されていることについて学習した。

次に、県の予算は教育費に多く予算を使っていることを、町では

歳出(目的別) 目的別とは… 特定の社会政策(子育て支援、高齢者福祉、災害対策)などの特定のテーマを目的として、(国・県・市町村)から交付金を受け、町独自の事業を実施すること。



用途別(歳出) 用途別とは… 国・県・市町村からの交付金を受け、町独自の事業を実施すること。用途別とは… 国・県・市町村からの交付金を受け、町独自の事業を実施すること。

増税するのはどうして?

社会政策(子育て支援、高齢者福祉、災害対策)などの特定のテーマを目的として、(国・県・市町村)から交付金を受け、町独自の事業を実施すること。

2018年度 国のおよの半の使途

用途別	割合 (%)
社会保障費	31.7
教育費	22.0
公債費	1.6
土木費	9.6
災害対策費	1.0
その他	23.4

10億689万円を可決

一般会計予算総額で113億2548万円に

提出議案の説明

補正予算概要
今回の補正予算は、一般会計のみの予算で、当初予算を替換するものとして補正したこと。政策的な肉付けを行い、その他補助事業の内示など当初予算の段階で予算措置ができなかったものについて、予算となります。

第2回定例会は6月14日(水)午後2時(報告契約4件、補正予算1件)開催予定です。一般質問は、2日間開催予定です。

施設の管理維持、災害復旧に関する道路や河川工事、公園整備などに使用されていること資料を使って学習した。

さらに山元町議会だよりをもとに、一般会計補正予算の中の教育費から、町内の各小中学校にエアコンを設置するにあたり調査費250万円の

予算が可決されたことを学習した。

展開の後半では、国・県・町それぞれの予算を国民が選挙で選んだ議員が話し合いを通して決めていることを学習した。児童にとっては、国会議員や県議会議員などは遠い存在であり、身近なことでは

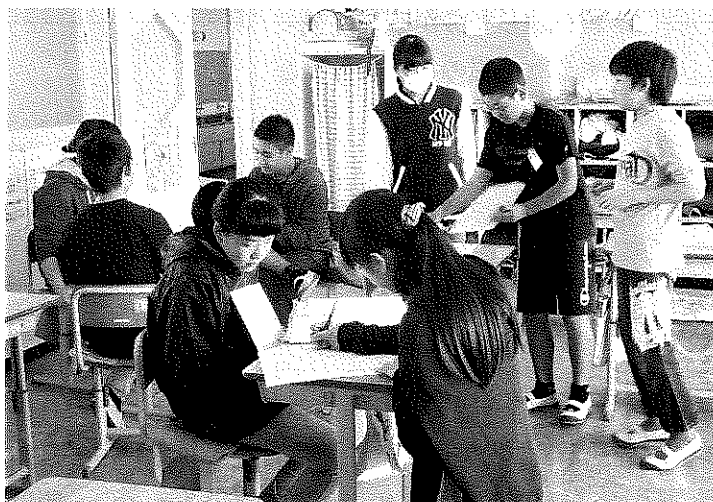
町長公約の主な予算	
保健センター改修事業	1,494万円
新規 水産業漁具整備補助事業(噴流式マンガ)	1,732万円
小・中学校エアコン設置基本計画業務	250万円
総計	
定住促進事業	6,648万円
お試し移住・交流推進事業	1,669万円
総計	4,695万円

なかったようである。しかし、町議会議員の話をしたところ、児童の中には知っている町議会議員の名前をつぶやく児童の姿も見られた。

終末段階では、学習を振り返って、気付いたことを自分なりの言葉でまとめることに取り組んだ。

●学習を終えての振り返りの感想

- ・税金はとても大切だと思いました。
- ・税は、日本のために役立てられていると思いました。
- ・いろいろな税金の名前を知ることができました。税金はわたたちの教科書にも使われていることが分かりました。
- ・いろいろな税金があることに気付きました。もっと税について知りたいです。
- ・税が身の回りの多くで使われており、税がなくなってしまうたら生活ができなくなってしまうということで、税はとても大切なものだったのだと改めて感じました。
- ・税は、とても重要なことが分かりました。税に助けられている人も多いのではないかと思います。
- ・消費税があるとももの値段の計算が難しいなと思っていました。でも、その消費税はわたしたちのためにあったことが分かりました。
- ・税にはたくさんの種類があることが分かった。税金は国民全員が納めていて、それは人々のくらしのために使っているということが分かった。
- ・税はなくてはならないものだと思います。税金を納めるのはちょっと嫌だと感じますが、ないとすごく困ると思います。
- ・税金はたくさんの種類があり、税金を納めることは、わたしたちのためになるものなので、大切さを感じました。びっくりしたのは、ふるさと納税です。税金を納めて返礼品をいただいているのでびっくりしました。
- ・これから消費税が上がるのは嫌だけど、どうして税金が上がるのかを知って、仕方のないことだとも感じました。
- ・税金が上がることはとても残念だけれど、国のためならしょうがないと思いました。税が国にとってとても大切なものだと分かりました。
- ・消費税が上がることを詳しく知れてよかったです。上がったとしても人のために役立つように使ってほしいと思います。



- ・今回の増税があるように、これから先も税や税の仕組みが変化するのかなと思いました。税金は増えたとしても、医療費や教育費などに変わるのであれば問題はないと思いました。
- ・消費税が変わる理由がテレビでは分からないことも、新聞学習を通して分かることができました。税のことをもっと知りたくなりました。



◎税に対する事後調査（平成30年度 6年1組 男9名 女8名 計17名）

平成30年11月実施

質問1 「税金」という言葉を知っていますか。	はい17名	いいえ0名
質問2 税金についてどんなものがあるか知っていれば書いてください。（複数回答可）	<ul style="list-style-type: none"> ・たばこ税14名 ・消費税13名 ・自動車税9名 ・酒税7名 ・入湯税6名 ・ふるさと納税5名 ・復興税3名 ・関税2名 ・相続税2名 ・住民税2名 ・所得税 ・狩猟税 ・ゴルフ場利用税 ・森林税 	
質問3 納めた税金はどんなことに使われていますか。（複数回答）	<ul style="list-style-type: none"> 国のため 町のため みんなを助けるため（子どもの医療費・介護・生活保護） 公共の施設（国の建もの 学校 病院 公園） 国の借金返済 ライフライン（道路工事 信号機） 教材・教科書 補助金 など 	

7 研究の成果と課題・感想

（1）成果

- ・調べ学習を行った後に、発表を行い、情報を共有することができた。
- ・インターネットを使って調べることで、様々な税金の種類に知ることができた。
- ・税金が国・県・市町村の財源となり、わたしたち国民のために使われていることや暮らしを支えてくれていることを知ることができ、税金は大切なものであると考える児童が多くなった。
- ・国・県・町などの行政がわたしたちの生活に関わり、よりよいくらしのために働いていることにも気付かせることができた。

（2）課題

- ・税金の学習をより身近なものにするために、家庭へのインタビューなども取り入れればよかった。
- ・地域の人材（町の税務課の方や議員さんなど）を招いた学習なども取り入れると、より税の使われ方に対する深まりがあったと考える。
- ・今年度、年間指導計画の中に一時的に租税教育を位置付けた。しかし、本校の総合的な学習における年間計画の中にはないものなので、今後も位置付けていくためには校内で十分な検討が必要であるとする。

(3) 指導者の感想

今回の租税教育研究発表に当たり、児童に対しどのような単元構成にすれば、興味・関心をもたせることができるか、また、税の大切さを実感させることができるか悩むことも多かった。学習時間の確保についても、課題は残った。

しかし、児童と税について学習を進めていく中で、国や県・町の行政機関や議会は、わたしたちの暮らしをよりよいものにするために、話し合い、何を優先すべきか考えてくださっていることに気付かされた。わたしも納税者の一人として、さらに自覚して国や県・町の行政のあり方を見つめていきたいと感じた。

租税教育実践発表一覧（昭和62年度～平成3年度）

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
昭和62	名取市立増田小学校	伊 藤 清 子	国民の生活の安定と向上を図るために、国民の三大義務のひとつである納税の義務を深く認識させる
	岩沼市立岩沼南小学校	千 葉 宗 久	租税に対する関心を高めるための指導のあり方についての一考察
	亶理町立逢隈小学校	堀 川 達 也	基本的人権の尊重が民主政治の根本であり、納税の義務はこれらの権利の見返であることを理解させる
	山元町立坂元中学校	佐 藤 光 雄	租税の役割と納税の義務の意味についての理解を深めさせる
	秋保町立秋保小学校	榊 井 裕	国の事業活動を通して、税の必要性や仕組みを理解させる
昭和63	名取市立関上小学校	小 暮 出	社会科教育の中で、租税の重要性を指導し、公共心・協調心に結び付け、これらを実践できる人間性を目標とした指導の工夫
	岩沼市立岩沼西中学校	鈴 木 啓 二 郎	金融と財政の働きの中で、租税と国民生活の関わりについての指導から税の意識の向上を図る
	亶理町立吉田小学校	今 野 喜 代 子	福祉関係等身近な事例を上げて税の重要性を指導し、最後に税の作文を通じて自覚をさせる
	山元町立山下中学校	菅 野 敏 郎	税に関するもの三点を上げさせ、これについて公民教育で考察することによる租税教育の実践
平成元	名取市立増田中学校	小 野 政 稔	租税の働きやしくみを理解させ、納税の義務を自覚させる
	岩沼市立岩沼西小学校	菊 地 真 勇 美	私たちの生活と政治の中から、租税について理解させる
	亶理町立吉田中学校	菊 地 嘉 昭	税に関する作品の応募から、財政と国民生活について指導
	山元町立坂元小学校	佐 藤 広 実	租税の簡単なしくみから、租税への関心を高めさせる指導
平成2	名取市立増田西小学校	鎌 田 彰 郎	産業廃棄物処理に関する学習の中で、税金の働きについてふれ、税の重要性を認識させる
	岩沼市立岩沼中学校	樋 口 英 明	財政を支える財源である租税の異議や役割を、経済の実態と動向にからませながら、税の重要性を理解させる
	亶理町立高屋小学校	太 田 久 仁 男	税金によって作られた公共物や学校施設を大切にす態度を育てる指導の工夫
	山元町立山下中学校	江 戸 寿	税金を正しく理解させるため、視覚教材を利用しながら見せる教育の実践
平成3	名取市立名取第二中学校	清 野 ひ さ 子	国民生活の中で、租税の働きを正しく理解させるための指導
	岩沼市立岩沼小学校	山 田 健 一	一人ひとりを大切にする政治の指導の中で、権利と税との関わりを考えさせる指導の実践
	亶理町立亶理中学校	本 間 和 哉	税に対し、生徒が主体的な活動により、興味・関心を持たせる指導の工夫
	山元町立山下第二小学校	佐々木 恭 也 小 関 尚 子	一人ひとりが健康で幸せな生活を送るために、税金は、どのように使われているかを理解させる

租税教育実践発表一覧(平成4年度～平成8年度)

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
平成 4	名取市立不二が丘小学校	丸 子 智 子	快適で豊かな生活を送るために税金はどのように集められ、また、どう使われるのか、自ら調べさせ理解させる指導
	岩沼市立岩沼北中学校	鈴 木 尚	租税の働きや仕組みを把握させ、正しい租税制度の在り方を理解させる指導
	亶理町立亶理小学校	木 村 和 正	税金が一人ひとりの生活に役立っていることを理解させる指導の工夫
	山元町立山下小学校	岩 佐 美保子 佐 藤 真 一	将来の自分や国を考えるために、税についての知識を深め、税の社会的意義を考えるとともに、興味・関心を持たせるような指導の工夫
平成 5	名取市立第二中学校	丹 野 光 洋	国民生活に大きな影響力をもつ、財政を支えている租税の意義を理解させ、また、税金は共同社会を維持するための会費であることに気付かせる指導の工夫
	岩沼市立玉浦小学校	渡 邊 清 孝	問題意識を持ち、自ら調べ解決する学習活動を通して、児童の税に対する興味・関心を高めさせる指導
	亶理町立吉田中学校	永 浦 晴 久	金融と財政の働きを租税教育の中心場面ととらえ、消費者としての私たちと関連させ、税をより身近なものとする指導の工夫
	山元町立中浜小学校	近 藤 英 人	児童一人ひとりに生活の中で、自分が税に対しどう関わっていけばよいかと考えさせる指導の工夫
平成 6	名取市立館腰小学校	高 橋 壽 子	問題意識をもって、自ら調べ解決する学習により、児童の税に対する関心を高めさせる税の意義と役割を理解させる指導の工夫
	岩沼市立岩沼西中学校	横 山 純	財政収入は租税を中心に成り立っていることを理解させ、納税の義務を負う国民のあり方について考えさせる指導
	亶理町立長瀬小学校	大 沼 仁	税金の必要性とその使われ方を理解させる指導を通して、税に対する興味・関心を高めさせる指導の工夫
	山元町立山下第一小学校	大 沼 毅	児童自ら税に対する課題意識を持たせ、調査し解決していく活動から、税の意義を理解させ、公共社会での責任と義務を培わせる指導の工夫
平成 7	名取市立愛島小学校	石 川 峰 生	子供の租税に対する関心を高めさせる指導の工夫
	岩沼市立岩沼小学校	大 沼 毅	税制度の理解を通して、公共社会での助け合いに対して、興味・関心を高めさせる指導の工夫
	亶理町立荒浜中学校	田 原 満	租税の意義と目的を理解させる指導を通して、税への関心を高める指導の一考察
	山元町立坂元小学校	菅 原 裕 子	税金の仕組みとその使われ方を理解させる指導を通して、税に対する関心・理解を高めさせる指導の工夫
平成 8	名取市立館腰小学校	芳 賀 佳 恵	課題意識を持ち自ら調べ解決する学習活動を通して、児童の税に対する関心を高めるための指導の在り方
	岩沼市立岩沼南小学校	菊 地 真勇美	税金は人々のくらしとどのように結びついているのかについて、身近な事例から気づかせ、納税の大切さを理解させる指導の工夫
	亶理町立荒浜小学校	佐々木 洋 美	計画・調査・発表を取り入れた学習活動を通して、児童の税に対する理解を深める指導の一考察
	山元町立坂元中学校	成 毛 毅	消費税と財政政策との関係をとらえて、税への関心を高める社会科公民的分野指導の一考察

租税教育実践発表一覧(平成9年度～平成13年度)

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
平成9	名取市立増田小学校	高 橋 千 佳	税に対する意識・関心を高めるための指導 ～6年『みんなの願いを実現する政治』の指導を通して～
	岩沼市立玉浦中学校	長 澤 裕 司	税への関心を高め、税を見る目を養う指導の一考察 ～税の公平性を考える討論活動を通して～
	亶理町立逢隈中学校	菊 地 幸 子	社会科学学習における租税教育の在り方と指導方法の工夫
	山元町立山下中学校	佐 藤 泉	税に対する理解を深める指導の一考察 ～財政の学習を通して～
平成10	名取市立不二が丘小学校	杉 田 由 英	児童の税に対する関心を高めるための指導 ～6年『みんなの願いを実現する政治』の指導を通して～
	岩沼市立岩沼西中学校	及 川 浩 芳	社会科における租税への認識を高める指導の工夫 ～各分野において、身近な資料を活用し、税の必要性を理解させる指導を通して～
	亶理町立逢隈小学校	鈴 木 健	自分なりの課題を持ち、自分なりの方法で調査や課題解決を行い、自分なりの方法で表現していく子供の育成 ～租税に関する学習を通して～
	山元町立山下第二小学校	佐 藤 真 一	小学5年生の税に対する興味・関心を高めさせる指導計画の工夫
平成11	名取市立下増田小学校	高 橋 宏 明	児童の税に対する関心を高めるための指導の工夫 ～課題意識を持って自ら調べ表現する活動を通して～
	岩沼市立岩沼西小学校	水 沼 久美子	児童の税に対する関心を高めるための指導と学習計画の工夫
	亶理町立亶理中学校	星 和 敏	租税への関心を高めるための指導の工夫
	山元町立山下小学校	阿 部 広 力	小学校4年生の社会科学学習における租税教育の効果的取り扱いについて
平成12	名取市立関上小学校	赤 沼 隆 史	児童の税に対する関心を高めさせる指導の工夫 ～自ら課題意識をもって調べる活動を通して～
	岩沼市立岩沼中学校	内 海 郁 子	児童の税に対する興味・関心を高めるための指導法の工夫 ～学び方を学ぶ学習を通して～
	亶理町立吉田小学校	渡 辺 隆	問題意識を持ち自ら学ぶ児童をめざして ～6年社会科の税金学習を通じた実践と考察～
	山元町立中浜小学校	阿 部 優 子	税に関することがらを主体的に学習させるための工夫
平成13	名取市立高館小学校	佐 藤 真理子	児童が税に対する興味・関心を持つための指導の工夫 ～住みよい「〇〇王国」作りの活動を通して～
	岩沼市立岩沼小学校	高 橋 悟	児童の税に対する興味・関心を高め、主体的に学習できるための指導の工夫
	亶理町立高屋小学校	大 槻 裕 史	児童の税に対する関心を高めるための指導の工夫 ～課題意識を持って自ら解決する活動を通して～
	山元町立山下第一小学校	佐 藤 尚 利	学校のプールが新しくなったよ！ ～税金博士を目指して～

租税教育実践発表一覧(平成14年度～平成18年度)

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
平成14	名取市立増田西小学校	鈴木 和 彦	児童の税に対する関心を高めるための指導の工夫 ～租税に関するニュース番組作りの活動を通して～
	岩沼市立玉浦中学校	大 堀 真 澄	税の関心を高め、理解を深める指導の一考察 ～租税に関する討論活動を通して～
	亶理町立亶理小学校	大 森 実	社会科との関連をはかった租税教育の試み ～税に関する興味・関心を育む単元の工夫を通して～
	山元町立坂元小学校	高 倉 成 行	児童が税に対する興味・関心を持つための指導の工夫 ～総合的な学習の時間「税金ってなんだ」の活動を通して～
平成15	名取市立ゆりが丘小学校	松 浦 和 浩	学年ごとの児童の実態に応じた効果的な租税教室のあり方
	岩沼市立玉浦小学校	柴 田 新 二	税に関する興味・関心を高め、主体的に学習に取り組む指導の工夫 ～税についての調べ学習、未来の玉浦を考える活動、道徳を通して～
	亶理町立吉田中学校	小 嶋 幸 生	租税に関する興味・関心を高める指導法の工夫
	山元町立山下第二小学校	佐 藤 孝 志	税の学習を取り入れた総合的な学習の時間の指導の一考察 ～「未来の山元町を考えよう」の活動を通して～
平成16	名取市立増田中学校	渡 邊 義 行	公民の学習における租税への関心を高める指導の工夫
	岩沼市立岩沼北中学校	瀬成田 実	税への関心を高め、思考を深める指導法の工夫 ～適切な資料展示や討論活動をとおして～
	亶理町立長瀞小学校	西 澤 勝 雄	社会科学習及び総合的な学習における租税教育の効果的な指導の一考察 ～4年社会科「住みよいくらしをささえる」、5年総合的な学習「わたしたちの亶理町を考えよう」の活動を通して～
	山元町立山下小学校	平 間 正 信	自分らしさを発信する子ども ～学んだことを発信する学習を通して(小学5年生の実践)～
平成17	名取市立関上中学校	大 宮 潤	租税への関心を高める指導法の工夫 ～3年間を見通した租税教育～
	岩沼市立岩沼西小学校	建 入 文 夫	租税について考え、正しく理解させるための指導法の工夫 ～租税に関する社会科の学習を通して～
	亶理町立荒浜中学校	佐 藤 秀 樹	公民としての資質を育てる租税学習の工夫 ～地域住民へのアンケート活動を通して～
	山元町立山下第一小学校	稲 垣 祐 子	税を通して山元町の良さを知り、発信する子どもの育成 ～総合的な学習の時間の活動を通して～
平成18	名取市立館腰小学校	相 原 直 人	税に関心を持ち税金の大切さを考えることのできる児童の育成 ～ぼくらの税金ホームページ作りを通して～
	岩沼市立岩沼西中学校	森 本 直 樹 菅 原 正 弘	公民としての資質の基礎を養う租税学習の工夫 ～3学年公民での継続した学習を通して～
	亶理町立荒浜小学校	塚 口 誠	進んで学習に取り組む児童の育成 ～租税に関する学習を通して～
	山元町立山下中学校	仙 石 直 樹	租税について正しく理解し、主体的に考えることができる生徒の育成 ～3年公民分野における「タックスレポート」づくりを取り入れた学習活動の工夫を通して～

租税教育実践発表一覧(平成19年度～平成25年度) ※平成23,24年度は震災により中断

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
平成19	名取市立那智が丘小学校	大 友 幹 雄	税に関心をもち、税の社会的意義を考えることのできる児童の育成 ～税に関する新聞作りの活動を通して～
	岩沼市立岩沼南小学校	横 山 勉	児童が興味・関心をもつための指導の工夫 ～小学校4年生からの「税に関する学習」を通して～
	亘理町立逢隈中学校	長 田 康 宏	税に対する興味・関心を高める指導法の工夫 ～身近な地域素材の活用を通して～
	山元町立中浜小学校	日 下 泰 彰 西 澤 憲 子	児童の税に対する興味・関心を高めるための指導の工夫 ～総合的な学習の時間「中浜の松ぼっくりから」の実践を通して～
平成20	名取市立第一中学校	小 嶋 幸 生	租税への関心を高める指導法の工夫 ～身近な資料や租税に関する討論活動を通して～
	岩沼市立岩沼中学校	長 澤 裕 司	租税への関心を高め、納税者としての自覚を培う指導の一考察 ～財政上の課題を考えさせる場面の工夫をとおして～
	亘理町立逢隈小学校	高 倉 成 行	税金の役割を理解させるための指導の工夫 ～小学校6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習を通して～
	山元町立坂元中学校	堀 内 恵 理 子	税に関心を持ち、主体的に社会とかかわろうとする姿勢の育成 ～3年公民的分野における租税学習を通して～
平成21	名取市立第二中学校	丹 野 光 洋	『納税者としての意識を高めるための指導法』 ～租税教室や様々な資料で学んだことを基にした消費税に関するディベートを通して～
	岩沼市立岩沼小学校	佐久間 秀 和	租税への関心を高める指導の一試み ～小学校6学年社会科「日本の歴史」での税の学習と「租税教室」の実践を通して～
	亘理町立亘理中学校	浦 邊 盛 勝	『税に対する興味・関心を高め、発展させる指導法の工夫』～生徒自身の身近な素材の活用を通して～
	山元町立坂元小学校	清 野 政 子	児童が税に対する興味・関心をもつための指導の工夫 ～総合的な学習の時間「税金ってなに」の活動を通して～
平成22	名取市立相互台小学校	大 沼 史 柄	『租税への関心を高めるための指導の工夫』 ～公共施設から税金を考える～
	岩沼市立玉浦中学校	山 田 洋 子	『税の必要性についての意識を高めるための指導法の工夫』～小学校6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習を通して～
	亘理町立吉田小学校	渡 辺 英 明	『身近なことから税金の意義や役割を理解させる指導法の工夫』～小学校6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習を通して～
	山元町立山下第二小学校	針 生 武 宏	『身近な生活での税に関心をもち、税の大切さを考えることのできる児童の育成』～総合的な学習の時間「山元町の未来を考える」の学習を通して～
平成25	名取市立増田小学校	佐 藤 真 一	『税に対する興味・関心を高めさせる指導の工夫』 ～自ら調べ、主体的に税を考える学習を通して～
	岩沼市立岩沼西小学校	管 野 千 里	『税金の役割と必要性を理解できる児童を育成するための指導の工夫』～小学校6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習を通して～
	亘理町立高屋小学校	小 松 晃	『税金の大切さを考えることのできる児童の育成』 ～総合的な学習の時間「人権福祉」学習-だれもが幸せに生きる町づくりを通して～
	山元町立山下中学校	太 田 侑 吾	『租税への興味・関心を深化させる指導の工夫』 ～山元町の復興に関する取り組みを通して～

租税教育実践発表一覧(平成26年度～)

年 度	学 校 名	担当教諭名	テ ー マ 名
平成26	名取市立不二が丘小学校	清 野 秀 和	「租税への関心を高めるための指導の工夫」 ～第6学年 総合的な学習の時間「税金について考えよう」の学習を通して～
	岩沼市立岩沼西中学校	阿 部 幸 子	「租税への関心を高め意義や役割を理解させる指導法の工夫」 ～租税教室や身近な資料の活用を通して～
	亶理町立亶理小学校	酒 井 久美子	「町民の願いを実現するために税金が果たす役割を理解させる指導の工夫」 ～「総合的な学習の時間」と6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習との関わりを通して～
	山元町立坂元中学校	渡 邊 淳 一	「将来の納税者としての意識を育む税金学習」
平成27	名取市立閑上中学校	荒 川 美 貴	「積極的納税者を育むための指導の工夫」 ～税の使い道についての学習や租税教室の活用を通して～
	岩沼市立岩沼南小学校	丸 谷 由 浩	「未来の望ましい納税者を育てる指導の実践」 ～税金に対する正しい知識を身に付け、正しく納めようとする態度を養う指導を通して～
	亶理町立吉田中学校	妹 尾 文 男	「納税者意識を高める指導の工夫」 ～生徒の疑問を大切にした授業づくりと税について考える機会を増やす実践から～
	山元町立坂元小学校	佐 竹 聡 子	「税金の役割を理解し、税金の必要性を感じられる児童の育成」 ～「坂元の復興と税金とのかかわり」を考える学習を通して～
平成28	名取市立下増田小学校	手 塚 英 海	「税に対する知識を深め、健全な納税者を育てる指導の実践」 ～主体的に課題を設定し、探求する学習を通して～
	岩沼市立岩沼中学校	武 田 裕 光	「地方自治の学習を通して租税の意義と役割を理解させる指導の工夫」
	亶理町立長瀨小学校	武 田 清 美	「税に対する興味・関心を高め、税の意義や役割を理解しようとする児童の育成」 ～税について児童自ら課題をもち、調べる活動を展開する学習から～
	山元町立山下第二小学校	渡 部 史 郎	「未来の納税者を育てる指導の一試み」 ～児童の「税」への興味・関心を生かした調べ学習を通して～
平成29	名取市立閑上小学校	菅 原 さとみ	「第6学年社会科学習として行う租税教育のあり方一考察」
	岩沼市立岩沼小学校	三 澤 恵	「税の意義や役割を理解し、政治参加に対する意欲を高める指導の工夫」 ～税金の使い道について考えさせる活動を通して～
	亶理町立荒浜中学校	小 鴨 幸 生	「租税への関心を高めるための指導法の工夫」 ～学び合いを取り入れた指導を通して～
	山元町立山下小学校	森 大 地	「税に対する興味・関心を高め、税への理解を深める指導の工夫」 ～主体的に課題を設定し、自ら調べる活動を通して～
平成30	名取市立第一中学校	榊 田 修	「租税教室や資料を用いた指導の工夫」
	岩沼市立玉浦中学校	川 又 大 輝	「歴史的分野における租税教育の可能性」 ～近代革命期と現在の税制度の比較を通して～
	亶理町立荒浜小学校	高 橋 洋 彰	「税への興味・関心を高め、正しい知識と納税意識をもった子どもの育成」 ～児童自らが課題をもち、調べる活動を通して～
	山元町立山下第一小学校	名 取 富 江	「児童が税に対する興味・関心をもつための指導の工夫」 ～総合的な学習の時間「税金ってなんだ」の学習を通して～

仙台南地区租税教育推進協議会 役員名簿

役 職	構 成 機 関	名 等	氏 名
会 長	岩 沼 市 教 育 委 員 会	教 育 長	百 井 崇
副 会 長	公益社団法人仙台南法人会	会 長	相 澤 十 四 男
	仙 台 南 税 務 署	副 署 長	田 中 攻 紀
常 任 幹 事	仙 台 南 税 務 署	総 務 課 長	安 達 健 治
幹 事	宮 城 県 仙 台 教 育 事 務 所	所 長	佐 々 木 博 明
	名 取 市 教 育 委 員 会	学 校 教 育 課 長	大 友 孝
	岩 沼 市 教 育 委 員 会	学 校 教 育 課 長	及 川 浩 市
	名 取 市 校 長 会 会 長	増 田 中 学 校 長	鈴 木 一 史
	岩 沼 市 校 長 会 会 長	岩 沼 小 学 校 長	佐 藤 崇
	亘 理 町 校 長 会 会 長	亘 理 小 学 校 長	宇 津 江 俊 彦
	山 元 町 校 長 会 会 長	山 下 第 二 小 学 校 長	富 田 栄 子
	仙 台 南 税 務 署 管 内 会 青 色 申 告 会 連 合 会	会 長	猪 股 弘 志
	仙 台 南 間 税 会	会 長	齋 藤 邦 男
	宮 城 県 仙 台 南 県 税 事 務 所	所 長	今 野 俊 明
	岩 沼 市	税 務 課 長	伊 藤 正 幸
会 計 監 事	東 北 税 理 士 会 仙 台 南 支 部	支 部 長	千 葉 末 男
	仙 台 南 小 売 酒 販 組 合	理 事 長	藤 原 仁 昭

顧 問	名 取 市	市 長	山 田 司 郎
	岩 沼 市	市 長	菊 地 啓 夫
	亘 理 町	町 長	山 田 周 伸
	山 元 町	町 長	齋 藤 俊 夫
	仙 台 南 税 務 署	署 長	高 橋 和 則

平成31年3月発行

発行者 仙台南地区租税教育推進協議会

事務局：仙台市太白区柳生2丁目28番2号（仙台南税務署内）

（022）306-8001 内線305



古紙配合率70%再生紙を使用しています